

## 小学生 (1年)

## 5 プロジェクト型活動 いってみよう やってみよう—サンドイッチを作ろう—

### 対象者・対象グループ

学年	小学1年生	人数	9名
滞日年数	日本生まれから来日直後まで		
つながりのある国	ブラジル		
母語	ポルトガル語		
就学歴など	日本で生まれ育った児童の多くはブラジルにつながりのある児童が9割以上を占める近隣の保育園に通っていた。一方、来日直後の児童に関しては、就学前教育を受けた経験の有無は個々の事情によって異なる		

### ココを見た！

	日本語	母語
聞く・話す	入学前の語彙力診断 日常での観察	入学前の語彙力診断 母語指導員による観察
読む	入学してから学習開始	—
書く	入学してから学習開始	—

### ステージ×ステップ



### 包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ (一番高い言語・技能)	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 母語 (ポルトガル語) <input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く	A～C	
ステップ	聞く・話す 1～4	読む 1～3	書く 1～2

### 実践の背景

本校はブラジル籍住民が多い地域にある公立学校である。児童の約7割が多文化多言語の背景をもち、その9割がブラジルにつながりをもつ。日本で生まれ育った児童もいれば来日直後の児童もあり、背景は非常に多様である。校内では友だち同士の会話がポルトガル語で行われることが多く、それが日本語の力が育たない原因として捉えられ、母語を禁止とする指導が行われていた時期もあった。しかし、母語を禁止しても日本語力の向上にはつながらず、かえって学習意欲を喪失し、考えること自体を放棄する児童の姿が見られるようになった。こうした課題を受け、2017年頃から児童の多様な背景を尊重し、すべての力を活用して考える力を育むという方針のもと、カリキュラム改革が進められてきた。

本実践は、その中でブラジルにルーツを持つ1年生9人を対象に行われたものである。ポルトガル語の母語指導員と協働し、日本語と母語の両方の聞く力と話す力を活用したプロジェクト型の授業を設計することで、児童たちが楽しみながらことばを使い、学びを深めることを目指した。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
	✓		
個人	小集団	大集団	オンライン
	✓		

## 実践の概要

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「サンドイッチ屋さん」のごっこ遊びができる</li> <li>・お客様になって、ほしいサンドイッチを伝えることができる（話）</li> <li>・店員になって、お客様の注文を聴き、サンドイッチを作ることができる（聞）</li> <li>・絵本の読み聞かせを楽しんだり、カタカナのことばを読むことができる（読）</li> <li>・絵や文字を使って、サンドイッチの作り方の絵本を作ることができる（書）</li> </ul> <p>〈目標の力：C 3～4〉</p>		
	目標に向けた重点活動	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む
指導形態	取り出し指導	指導扱い	特別の教育課程 (プロジェクト活動)
		指導時間	週9（1回45分）

### 実践の見どころ

この実践の見どころは、多文化多言語の児童が夢中になってことばを使えるプロジェクト活動を設計した点です。1年生は「ごっこ遊び」が大好きです。日本のサンドイッチ屋さんでは日本語、ブラジルのサンドイッチ屋さんではポルトガル語を使ってお客様として注文したり、店員役を楽しんだりしながら学習しました。また、1年生が得意とする「聞く力」を活かし、ジェスチャーつきのオリジナルソング「サンドイッチの歌」を日本語とポルトガル語で作り、毎回の授業で歌い、読み聞かせ活動も取り入れました。さらに、活動の中で理解した「ハム」「チーズ」などのことばを使ってカタカナの読み書きにつなげたり、メニューから注文したい食材の文字を探すゲームを通じて文字学習を進めました。最後に、家族といっしょに本物のサンドイッチを作ることを提案し、学校での学びを家庭に広げる工夫も行いました。これらの活動を通じて、児童が楽しみながら主体的に学べる環境を提供しました。

### 指導計画（全9時間）

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント
1	活動に対して動機づけをする	・活動の目的を知る ・お店の看板をつくる	☆「サンドイッチ」をカタカナで読み、画用紙に一人一文字ずつ書く ★「サンドイッチ」と「SANDUÍCHE」を画用紙に一文字ずつ書いて、看板になるようにみんなで順序良く並べる
2	絵本で事前知識を得る	・絵本を見ながら、サンドイッチの作り方について話す ・歌を歌う（資料①）	☆食材の名前を答える ☆絵とひらがなやカタカナと一緒に示しながら、文字の読み書きにつなげる（資料④） ★母語でも聴いたり話したりする ★日本語と母語でオリジナルの「サンドイッチの歌」を歌う
3 ～ 7	サンドイッチ屋さんごっこができる	サンドイッチにぬりたいものの、のせたいもの、切り方を注文する（資料③） ・お客様と店員さんに分かれて演じる	☆サンドイッチにぬるバター、マヨネーズ、のせるレタス、ハム、チーズなど、切り方（三角に切る、2こに切るなど）を考えて、自分の欲しいサンドイッチを注文する ☆店員さん役を練習する ★ブラジルのサンドイッチ屋さんも開き、日本語と母語で注文をしたり、店員さんをしたりする ★二つのことばの違いや似ているところに注意が向くように促す
8 ～ 9	絵本を作つて、先生や友達に聴かせることができる	・絵やことばを使って絵本を作る ・絵本を読んで、先生や友達に聴かせる	☆サンドイッチの作り方について、絵や（文字が書ける児童は）ことばで書いて、絵本にする ☆作った絵本を読んで聴かせる ★母語でも SANDUÍCHE と書くように促す ★家族にサンドイッチの本を見せて、いっしょにサンドイッチをつくるように勧め、学校での学習と家庭をつなぐ

## 授業の流れ (4/9)

ねらい (目標) サンドイッチにのせたいものを注文することができる

分	学習活動等	指導・支援のポイント
7	1.毎日のルーティン 2.サンドイッチの歌を日本語と母語で歌う 3.サンドイッチに、はさむものの名前を日本語と母語で確認する 4.めあてを確認する	<p>☆「今日は10月28日水曜日です」「はれです」を確認する        ★「サンドイッチの歌」(ジェスチャーつきのオリジナルソング)を日本語と母語でみんなで一緒に歌う (資料①)        ↪サンドイッチを作ります。パンにバターをぬります。レタス、トマト、ハムをのせて、パンをのせたら、包丁で切って、出来上がり♪        ↪Vamos fazer sanduiche. Passar manteiga no pão. Colocar alface, tomate e presunto no pão. Colocar mais um pão e pronto! ♪        ★プロジェクターで絵を示しながら、サンドイッチにはさむ野菜やくだもの、ハムなどの名前を日本語と母語で確認する        ☆今日のめあてを板書し、みんなで声に出て言うように促す  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">なにをのせますか。</div></p>
18	5.本でみたサンドイッチにはさむものを確認する 6.なにをのせたいかを考え、発表する	<p>☆サンドイッチの本でなにをのせていたかを思い出すように支援する        ☆絵カードを黒板にはり、児童が言ったものの名前と絵カードを結びつける        ☆実践者がモデルを示した後に、「みんなは、なにをのせたいですか」と質問する        ☆黒板に貼ったパンの絵の上にのせたいものの絵をのせて、発表するよう促す        「きゅうりとたまごをパンにのせたいです」(資料②)        ★母語でも考えたり、話したりするように促す</p>
10	7.サンドイッチ屋さんでのせたいものを注文する	<p>☆教室の後ろに設置したサンドイッチ屋さんで、「～をのせてください」と注文して、サンドイッチを受けるように促す        ★ブラジルのサンドイッチ屋さんでは、「～ Por favor」と注文する (資料③)        ♥食パン型スポンジや食材絵カードなど、たくさんの小道具を用意する</p>
5	8.「ハム」「チーズ」を使って、カタカナの読みと書きにつなげる	<p>☆児童がよく知っているサンドイッチにはさむものとして「ハム」「チーズ」を文字でも示し、カタカナの読み方、書き方を確認する (資料④)        「サンドイッチの「チ」、マヨネーズの「ズ」といっしょだね」        ☆ワークシートのメニューにあるものの名前を探して文字をなぞるよう促す</p>
5	9.今日の学習の感想を発表する	<p>☆表情の絵カードで気持ちを確認し、楽しかったこと (ニコニコ)、たくさん話せたこと (はきはき)、積極的にできたこと (どんどん)、を発表する        ♥できたよカードにシールを貼る</p>



資料① オリジナルソング「サンドイッチの歌」



資料② サンドイッチにのせたいものを発表



資料③ 日本語と母語でサンドイッチを注文

資料④ 「ハム」「チーズ」を活用して  
カタカナの読み書きにつなげる

## 子どもの様子&実践者の気づき

サンドイッチの歌は日本語でもポルトガル語でもすぐに覚え、「もう一回歌いたい！」という声が何度も上がりました。また、サンドイッチにはさむ食材の名前を日本語とポルトガル語で確認する場面でも、答えたという意欲に溢れていきました。わからない時は「なんていうの？」と自分から質問したり、「パイナップルはabacaxi」と教わるとそれをずっと口ずさんだりする姿が見られました。特に興味深かったのは、日本語だけでことばを確認する時よりも、ポルトガル語を交えた今回の活動では、日本語の声もより大きくなっていた点です。

サンドイッチ屋さんごっこでは、作りもののサンドイッチを食べる真似をする児童もいて、活動に夢中になっている様子が伝わってきました。さらに、日本語で文を作るのがまだ得意でない児童が、最後に自ら手を挙げて「サンドイッチ屋さんで話したことがうれしかったです！」と発表したことはとても印象的でした。ことばは使いたいという気持ちがあってこそ覚えられるということを実感しました。

### 子どもが輝く授業のデザイン

振り返ると、西保見小での児童との出会いは、私の教員人生において大きな転機だったと思います。ひらがなは読めるようになったものの日本語が話せない、目を見ると伝えたい気持ちがあふれているのにことばにできない…、そんな子どもたちが「わかった！」「日本語、楽しい！」と感じられる授業がしたいという思いをずっと抱えていました。そのため単元を計画する際には、対話できる活動、絵本や歌の活用、読み書きにつなげること、複数言語での学習、そして成果物としてのゴールを意識して取り組んできました。

本実践の出発点となったのは、小西英子さん作の絵本『サンドイッチ サンドイッチ』との出会いです。1年生である対象児童の「食べること」と「ごっこ遊び」が大好きという特性を活かして、活動を通じて対話を促し、カタカナを学習し、本を作り…と、1冊の本からどんどん構想が広がっていきました。学習の締めくくりとして家庭と学校をつなぐ仕掛けを取り入れたところ、家庭で作ったサンドイッチの写真を見せにきてくれる児童もいました。この単元は対象児童にとっても特別な思い出になっているようで、学年が上がっても「先生、サンドイッチ楽しかったよ」と声をかけてくれる子もいます。

それは、学びが単なる知識の習得ではなく、心に残る経験として根付いている証なのかもしれません。これからも、児童たちが日本語も母語もふくめてことばを使う楽しさを感じ、学びを広げていけるような授業を考えていきたいと思います。

**小学生  
(1年)**

**6 トピック型活動・生活  
春の草花bingoをしよう！**

**対象者・対象グループ**

学年	小学1年生	人数	3名
滞日年数	5ヶ月 2年 日本生まれ		
つながりのある国	フィリピン ブラジル		
母語	フィリピン語 ポルトガル語		
就学歴など	1名は1年生になる3ヶ月前に来日、本校に入学。2名は入学前にこども園に通園		

**ココを見た！**

	日本語	母語
聞く・話す	DLA 日常での観察	DLAの語彙力チェック 母語のできる先生（サポーター）による観察
読む	DLA 日常での観察	—
書く	作文課題 日常での観察	—

**ステージ×ステップ**

ステージ スコア	A 【イマココ】期	B 【イマココから順序】期	C 【順序】期	D 【因果】期	E 【抽象】期	F 【評価・発展】期
8 書く 読む 聞く・話す						
7 書く 読む 聞く・話す						
6 書く 読む 聞く・話す						
5 書く 読む 聞く・話す						
4 書く 読む 聞く・話す						
3 書く 読む 聞く・話す						
2 書く 読む 聞く・話す						
1 書く 読む 聞く・話す						

**包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ**

ステージ (一番高い言語・技能)	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input checked="" type="checkbox"/> 母語 (フィリピン語 ポルトガル語) <input checked="" type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く	B～C
ステップ	聞く・話す 2～4	読む 1～3	書く 1～3

**実践の背景**

小学校に入学したばかりの1年生3名は、滞日期間も様々で、日本語の力や母語の力も多様である。2名は就学前にこども園に通園していた経験があり、学習に参加するための日本語の聞く・話す力が身についているが、来日してからの期間が浅い1名は、日本語で簡単な会話をすることにもまだ困難を感じている。母語に関しては、日本生まれの児童と滞日期間の短い児童は日常会話ができる一方、滞日2年になる児童は徐々に忘れつつある。また、全員がひらがなの読み書きを習い始めたばかりで、日本語の語彙の量にも差が見られるため、それぞれ異なる支援が必要である。

そこで、3名全員が楽しく学びながらことばの力を伸ばせるように、身近な春の草花を題材にした「体験」→「探求」→「発見」というプロセスを重視した授業を計画した。この授業では、草花を観察し触れる体験を通じて興味を引き出し、新たな語彙や表現を自然に学ぶ機会を提供することを目指した。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
	✓		
個人	小集団	大集団	オンライン
	✓		

## 実践の概要

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然に関心を持ち、自然のすばらしさに気づき、大切にすることができる</li> <li>採取してきた草花を工夫して発表用画用紙にまとめることができる</li> <li>代表的な春の草花の名前と色を表す日本語を理解し、ひらがなを使って書くことができる</li> </ul> <p>〈目標の力：C 3～5〉</p>	
目標に向けた重点活動	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く	
指導形態 取り出し指導	<b>指導扱い</b> 特別の教育課程 (教科につながる指導)	<b>指導時間</b> 週 2～3 時間 (1回45分)

### 実践の見どころ

この実践の見どころは、春の草花を題材にした体験的な活動を通じて、児童たちが自然への関心を深めながら日本語の力を育む点にあります。最初に、「春の草花bingo」を活用して草花の名前や特徴を紹介し、児童の興味を引き出すとともに、意欲的に活動に参加できるよう支援しました。その後、実際に校庭や学校周辺で「春の草花見つけ」を行い、春の草花に触れることで、花や葉っぱの色、形、手触りといった特徴を五感で感じ取る機会をつくりました。この体験を通じて、見つけた草花を日本語で表現し、語彙や表現力の向上につなげました。さらに、活動の締めくくりとして、bingoが完成した際に児童が発見したことや感じたことをクラスで発表する時間を設けました。これにより、達成感を味わうとともに、学びを共有する喜びを感じられるよう工夫しました。このように、自然への興味を育むと同時に、ことばを楽しく学ぶ機会をつくる点が、本実践の大きな魅力です。

## 指導計画 (全2時間)

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント	
1	自然に関心をもつことができる〈本時〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>草花のbingoのやり方を知り、草花を見つけに行く</li> </ul>	<p>☆代表的な春の草花の名前と色を表すことばがわかる</p>	<p>★五感を使って春の草花を体験し、その体験とことばを結びつける</p>
2	発見したこと、感じたことを発表することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>見つけてきた草花を画用紙に工夫して貼る</li> <li>春の草花見つけの感想を発表する</li> </ul>	<p>☆学習した身近な草花の名前を、ひらがなを使って書くことができる ☆「○○がたのしかった。」「○○がうれしかった。」などの気持ちを表すことばが使える</p>	<p>○発見したことや感じたことをみんなの前で発表できる</p>

## 授業の流れ (1/2)

ねらい (目標) 代表的な春の草花の名前と色を表すことばがわかる

分	学習活動等	指導・支援のポイント
導入 10分	1.本時の見通しを立てる 2.春の草花見つけのやり方を説明する	<ul style="list-style-type: none"> <li>12種類の草花の写真付きの「はるのくさばなbingo」を活用する (資料①)</li> <li>草花の名前と特徴を伝え、bingoへの意欲が持てるよう支援する</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <p><b>資料①</b> はるのくさばなbingo</p>

分	学習活動等	指導・支援のポイント
展開 30分	3.校庭や学校周辺で、ビンゴにある春の草花を見つける（資料②）	<ul style="list-style-type: none"> <li>草花を見つける喜びや自然のすばらしさを感じるように支援する</li> <li>草花を見つけたときには、その花の色や特徴を簡単な日本語で伝えるようにする</li> <li>ヨモギの匂いを嗅ぐなど、五感を使った体験的な活動も取り入れる</li> </ul> <p>「タンポポの花を見つけたよ。花は黄色いです。」「ビンゴが一つできたよ。うれしいな。」</p>
まとめ 5分	4.ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験の中で感じたことを日本語や母語で表現するよう促す</li> </ul>

### 子どもの様子＆実践者の気づき

活動の中で、児童たちは五感を使って春の草花を楽しみながら学んでいました。日本語の発話がまだ十分でない児童も夢中になって草花を探していました。ビンゴにある草花を発見できた時には「あった！」ということばが自然とこぼれています。また習ったばかりのひらがなで草花の名前を書く活動にも意欲的に取り組むことができました。体験とつなげながら読み書きの活動を行うことで、児童から「早く全部ひらがなを覚えたい」といった声も聞かれました。そして、ビンゴが完成したときの「やった！」といった笑顔からは、活動の楽しさが学びのモチベーションにつながっていることが実感できました。

最後の発表では、児童が自分の発見や感じたことを、自信を持って生き生きと話している姿がとても印象的でした。児童が発見したことなどをことばにして伝えようとする姿を見て、対話を通じた学びの大切さを改めて感じました。身近にある草花を使った学びが、自然への興味を育てるだけでなく、ことばの力を伸ばすことにつながると実感しました。



資料③ 草花を画用紙に貼る様子



資料④ 発表の様子

ビンゴがたのしかったです。花を見つけたときはうれしかったです。またやりたいです。

フィリピンで見たことがない花がありました。こんどヨモギだんごを食べたいです。



資料⑤ 気持ちを表すヒントカード

## 子どもが輝く授業のデザイン

この授業では、「体験」→「探求」→「発見」というプロセスを軸に、身近な春の草花を題材とし、さらにゲーム性のあるビンゴ活動を組み合わせることで、3名の実態に合った学びの場をつくることができたと思います。

私は、授業を実践するときに以下の3点を重視してきました。

**たのしい授業** **かんがえたくなる授業** **みんなでつくる授業**

頭文字をとって「たかみんな授業」（たかみんとは、ある児童たちが私（高見）につけたあだ名）です。長年、これらを目標に日々授業づくり取り組んできました。ただ、日本語指導を専門として学んだことはありませんでした。今回、これまで培ってきた授業実践に多文化多言語の児童と出会ったことで新たな視点がプラスされ、今の授業スタイルが出来上がっていきました。それだけに日本語指導との出会いは大きな財産だと思っています。多文化多言語の児童が輝ける授業は、日本語を母語とする児童も輝ける授業です。これは授業の本質だと思います。私にたくさんのこと教えてくれる多様な児童との出会いをこれからも楽しみたいです。

実践者 高見 成幸（兵庫県丹波篠山市立岡野小学校 主幹教諭・実践時）  
 協力者 今川 美幸（兵庫県教育委員会事務局人権教育課 副課長）  
 兵庫県教育委員会（2020）pp. 92-95

**小学生  
(2年)**

**7 取り出し指導と在籍学級と連携した国語  
かさこじぞうー即興劇を楽しもう (東京書籍)**

**対象者・対象グループ**

学年	小学2年生	人数	3名
滞日年数	2年 4年 日本生まれ		
つながりのある国	フィリピン ブラジル		
母語	フィリピン語 ポルトガル語		
就学歴など	1名は1年生になる3ヶ月前に来日、本校に入学。2名は入学前にこども園に通園		

**ココを見た!**

	日本語	母語
聞く・話す	DLA、日常での観察	DLAの語彙力チェック 母語のできる先生(サポーター)による観察
読む	DLA、日常での観察	—
書く	作文課題、日常での観察	—

**ステージ×ステップ**

ステージ ↓ ステップ	A 【イマココ】 期	B 【イマココから順序】 期	C 【順序】 期	D 【因果】 期	E 【抽象】 期	F 【評価・発展】 期
8 書く 読む 聞く・話す						
7 書く 読む 聞く・話す						
6 書く 読む 聞く・話す						
5 書く 読む 聞く・話す						
4 書く 読む 聞く・話す						
3 書く 読む 聞く・話す						
2 書く 読む 聞く・話す						
1 書く 読む 聞く・話す						

年齢枠目標  
目標

現在

現在

**包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ**

ステージ (一番高い言語・技能)	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input checked="" type="checkbox"/> 母語 (フィリピン語 ポルトガル語)	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input type="checkbox"/> 書く	B～C
ステップ	聞く・話す 4～5	読む 3～5	書く 3～5			

**実践の背景**

本実践は、実践記録No.6の児童3名を対象に、その1年半後に行ったものである。この1年半で児童たちは日本語力や包括的なことばの力をそれぞれ伸ばしてきた。特に滞日期間が比較的長い2名は、在籍学級の授業を丁寧に行えば、取り出し授業での支援がほとんど必要ないところまでできている。また、滞日期間の浅かった1名もおしゃべりが大好きで、日常的な会話では友だちや先生に積極的に話しかけ、伝えたいことを表現できるようになった。

国語の授業においては、3名ともこれまでに昔話に親しんできた。本単元では「誰が(何が)」「どうなった」という視点で物語の展開のおもしろさを考えながら読む学習を行い、自分が見つけた昔話のおもしろさをまとめて伝えることをねらいとしている。ただ、「なでる」「かき落とす」など馴染みの薄い表現や、「土間」「すげ」「かさ」といった日本の文化的知識が必要な語句、方言によるセリフなどは、多文化多言語の児童にとって理解が難しい。また、読み書きの活動はまだ負荷が大きい。そのため、適切な支援を通じてこれらの課題を解消し、児童が学びをより深められるよう工夫している。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
	✓		
個人	小集団	大集団	オンライン
	✓		

## 実践の概要

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな昔話を読んでおもしろいところを見つけ、カードに書いて友だちに紹介することができる</li> <li>音読や場面の動作化を通して、じいさまとばあさまの様子を読み取り、気持ちを想像してワークシートに書くことができる</li> </ul> <p>〈目標の力：C 5〉</p>	
目標に向けた重点活動	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す <input checked="" type="checkbox"/> 読む <input checked="" type="checkbox"/> 書く	
指導形態 取り出し指導	<b>指導扱い</b> 特別の教育課程 (教科につながる指導)	指導時間 週2～3 (1回45分)

### 実践の見どころ

この実践の見どころは次の2点です。1つ目は、劇を通じて物語を体験的に理解し、豊かな想像力を育むことです。2つ目は、取り出し授業と在籍学級での活動を連携させ、児童一人ひとりの学びを深めていることです。劇の活動では、実践者の劇を見たり、児童がじいさまや地蔵様の役を演じることで、馴染みが薄い表現でも体験的に理解することができました。また、劇を演じた後に、じいさまの気持ちについて自分の体験と結びつけながら考えることで、より深く想像することができるようになりました。

さらに連携授業において、取り出しでは物語の理解を深めたり、発表の準備に重点を置き、在籍学級では友だちと感想や考えを共有する活動に取り組みました。これにより、児童が意欲的に学びに向かう姿勢が育まれました。

### 指導計画 (全7時間) × (朝の読書タイム+在籍指導9時間)

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント	
0	物語を知る	「かさこじぞう」のリライト教材を朝のスキンルタイムに読む	☆リライト教材を読むことができる	★○物語文の内容の大筋を理解する
在籍学級 (2時間)	学習の見通しを持てる	物語紹介という最終目標を知る	☆読み聞かせを聞く ☆昔話特有の言い回しや難しい語句の意味を知る	♡これから学習に興味を持つて取り組む
1	場面分けと大筋を理解する	場面を分けて、大まかな流れを確認する		★○場面ごとにじいさまとばあさまのしたことを読み取る
2～4 + 在籍学級 (3時間)	場面ごとの詳細を把握できる (本時)	場面ごとの人物の様子や気持ちを読み取る	☆場面ごとに読むことができる ☆モデル文にそって、ワークシートを埋める	★○場面ごとの、じいさまとばあさまの様子を読み取り、おもしろいところを見つけてワークシートに書く
5 + 在籍学級 (1時間)	物語の感想が書ける	おもしろいところをカードに書く	☆モデル文を参考に、おもしろいところを書く	★○自分が感じたおもしろさをカードに書いて、友だちと伝え合う
6～7 + 在籍学級 (1時間)	好きな昔話の紹介文が書ける	昔話のおもしろいところを書いた紹介カードを作る	☆モデル文を参考に、昔話のおもしろいところを紹介カードに書く	★ブラジルやフィリピンの昔話を紹介カードに書くように勧める
在籍学級 (2時間)	友だちに好きな物語を紹介できる	昔話のおもしろいところを紹介し合う	☆昔話のおもしろいところを在籍学級の友だちに紹介する	♡読書への関心を高め、読書を続けるように促す ♡単元全体の学びをふりかえり、目標が達成できたことを喜ぶ

## 授業の流れ（3/7）

### ねらい（目標）

- ・じいさまが地蔵様にしたことを読み取り、じいさまの地蔵様に対する気持ちを想像し、おもしろい（いいな）と思ったところを見つけて、友だちと伝え合うことができる
- ・第3場面のおもしろい（いいな）と思ったところを見つけて、ワークシートに書くことができる
- ・「なでました」「むすんであげました」などの表現に気をつけながら、じいさまが地蔵様にしたことを動作化することで、したことと気持ちをことばと結びつけて理解したり、表現したりできる

分	学習活動等	指導・支援のポイント
導入 5分	1.前時の学習をふりかえり、本時のめあてを確認する	○「単元全体の学習の流れ」を教室に掲示しておき、それを見て本時の学習内容を確認する
展開 25分	<p>2.第三場面の実践者の劇を見たり、音読を聞いたりする（資料①）</p> <p>3.じいさまが地蔵様にしたことや話したことを発表する（資料②）</p> <p>4.じいさまと地蔵様の役になって劇をする（資料③）</p> <p>5.地蔵様にかさこをかぶせて帰っていくときのじいさまの気持ちを想像して発表する</p>	<p>☆文を短く区切りながら範読し、児童が続けて読めるようにする</p> <p>☆★○実践者が劇のモデルを示し、児童が活動イメージを持てるようにする</p> <p>★○児童の発表に合わせて、じいさまが地蔵様にしたことやセリフを書いた短冊を黒板に掲示し、順序を正しく捉えられるようにする</p> <p>☆★○まず児童が動作化をしてから、「かきおとしました」「なでました」などの動きをふりかえる</p> <p>☆★○じいさまの動きや会話について、お互いにアドバイスしながら劇ができるように支援する</p> <p>○自分の体験を思い出すよう促してから、じいさまの気持ちやじいさまがどんな人かを考える 「雪や氷をさわったことがありますか？」「さわったらどうだった？」</p> <p>☆「うれしい」「かなしい」などの気持ちを表すカードを黒板に掲示しておき、気持ちを考えるヒントにする</p> <p>★○挿絵や教科書の「やっと、安心しました」という文からじいさまの気持ちを考える</p>



資料① 実践者によるモデル劇



資料② 児童の発表



資料③ 児童による劇

分	学習活動等	指導・支援のポイント
まとめ 10分	6.第3場面のおもしろい（い いな）と思ったところを見 つけてワークシートに書き、 発表する（資料④）	<p>☆ワークシートに書き方の モデル文を記入したり、 形式を第1場面から類似 したものにしておく</p> <p>★母語サポーターの先生と 母語を使って考えたり、 書き上げた文章を母語で 伝えたりする</p> <p>♡間違いがあってもすぐに 指摘せず、間違いに児童 自らで気づき、直すこと ができるように支援する</p>
ふり返り 5分	7.学習の感想を発表する	☆気持ちを表すカードを提示し発表を支援する



資料④ ワークシート

## 子どもの様子&実践者の気づき

対象児童は劇を通じて物語を体験的に理解し、昔話ならではの語り口や言い回しを楽しみながら、生き生きと学んでいました。難しい語句も劇の中で繰り返し使うことで、自然と理解が深まっていったようです。特に、滞日期間が浅く、集団での活動が少し苦手な児童が積極的に役を演じたり、母語サポーターの先生に物語についての感想を母語で一生懸命伝えている点も印象的でした。自分のことばが使える環境を作ることの大切さを実感しました。また、地蔵様にかさこをかぶせて帰っていくときのじいさまの気持ちを考える場面では、雪や氷を触ったときの体験を思い出させると、「雪をさわったらめちゃくちゃつめたかった。」「つめたすぎて、あつい！」などの発言が飛び出しました。その後に、「雪や氷ってとってもつめたいのに、ぜんぶのじぞうさまのおつむの雪を手でかき落として、かさこをつけたり手ぬぐいをかぶせたりしたんだね。そんなじいさまはどんなじいさまだと思いますか。」と尋ねると、すんなりとじいさまの優しい人柄を想像できていました。まさに、自分の体験と授業での劇、そしてことばがつながった瞬間でした。

### 子どもが輝く授業のデザイン

低学年の児童が主体的に学び、自分の力を発揮できる授業には、ことばを使った豊かな体験と共有が鍵になると改めて感じました。本実践では、児童が興味を持ち、即興で劇を楽しめるよう、情景を描いた大きな絵や吹雪の効果音、雪（分厚いポリエチレンの緩衝シート）や手ぬぐい、笠といった小道具を準備し、黒板の短冊と児童のセリフを結びつけるなど工夫を凝らしました。準備には時間がかかりましたが、それ以上の成果が得られた授業となりました。また、児童が自信を持って学ぶ場所は取り出し授業ではなく、在籍学級の中でこそあるべきです。今回の連携では、取り出し授業で育んだ自信を在籍学級で活かし、友だちと考えを共有する姿が見られました。このような学びの場が、児童の意欲と力を引き出し、彼らを輝かせる授業の本質であると実感しました。

小学生  
(3年)8 取り出し指導と在籍学級と連携した国語  
三年とうげ (光村図書)

## 対象者・対象グループ

学年	小学3年生	人数	1名
滞日年数	1年7か月		
つながりのある国	ニュージーランド		
母語	英語		
就学歴など	1歳から5歳までニュージーランドの保育園に通園、5歳から8歳までニュージーランドの小学校に通学。その後、現在の小学校に転入		

## ココを見た！

	日本語	母語
聞く・話す	DLA 日常での観察	本人と保護者からの聞き取り
読む	DLA 取り出し指導での観察	本人と保護者からの聞き取り
書く	DLA 取り出し指導での観察	本人と保護者からの聞き取り

## ステージ×ステップ

ステップ	ステージ	A【イマココ】期	B【イマココから順序】期	C【順序】期	D【因果】期	E【抽象】期	F【評価・発展】期
8	書く						
	読む						
	聞く・話す						
7	書く						
	読む						
	聞く・話す						
6	書く						
	読む						
	聞く・話す						
5	書く						
	読む						
	聞く・話す						
4	書く						
	読む						
	聞く・話す						
3	書く						
	読む						
	聞く・話す						
2	書く						
	読む						
	聞く・話す						
1	書く						
	読む						
	聞く・話す						

年齢枠  
の目安

目標

現在



## 包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ (一番高い言語・技能)	□ 日本語 ☑ 聞く・話す	□ 母語 □ 読む	□ 書く	D
ステップ	聞く・話す 4	読む 3	書く 4	

## 実践の背景

対象児童は母語（英語）の力が高く、包括的なことばの力で学習理解ができる。日本語での日常会話に支障はないが、日本語の読み書きへの苦手意識があるために、在籍学級では自信をもって取り組めない場面が見られる。特に、初見の文章を読んで内容を理解することが難しく、それが書くことの困難にもつながっている。母国では学習場面で活躍していたが、日本の学校では自身の力を十分に発揮できない状況が続いている。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
	✓		
個人	小集団	大集団	オンライン
✓			

そこで、本実践では先行学習と補充学習を設定し、「読める喜び」を「表現する喜び」へと結びつける学習を計画した。「三年とうげ」という朝鮮半島の民話を教材に、リライト教材や母語訳などのオリジナル教材も活用しながら、包括的なことばの力で内容を読み取ったり思いや考えを表現したりできるように支援する。また、在籍学級と連携して母国の民話を紹介する場を設け、自己肯定感を高めたり多文化尊重の意識を育んだりすることを目指していく。

## 実践の概要

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>民話を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。また、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる</li> <li>思いや考えを整理しながら、相手に伝えたいことを自分のことばで表現することができる</li> </ul> <p>〈目標の力：D 5〉</p>	
目標に向けた重点活動	<input type="checkbox"/> 聞く・話す <input type="checkbox"/> 読む <input checked="" type="checkbox"/> 書く	
指導形態 取り出し指導	<b>指導扱い</b> 特別の教育課程 (教科につながる指導)	指導時間 月2 (1回45分)

### 実践の見どころ

本実践は、取り出し指導での先行学習・補充学習と、在籍学級で自己表現できる場の設定とを組み合わせて計画しました。先行学習では、児童のもつことばの力の強みと一緒に確認し、それを視覚化して価値づけました。すべての力を生かすことを児童に意識させた上で、日本語を聞きながら母語で書かれた「三年とうげ」の文（英訳）を追う形で読解を行いました。その結果、児童は内容を細部まで理解し、思いや考えを日本語で自由に表現することができたのです。「三年とうげ」の面白さに気づき、伝えたい気持ちが溢れるように湧き出したことが、豊かな日本語で感想を書き表すことへつながりました。

在籍学級では学級担任と連携し、補充学習で取り組んだ内容を発表する場をもつことができました。母国の民話紹介や母語での読み聞かせを行う児童の姿は、自己表現できる喜びに満ち溢れ、いつもも増して輝いていました。

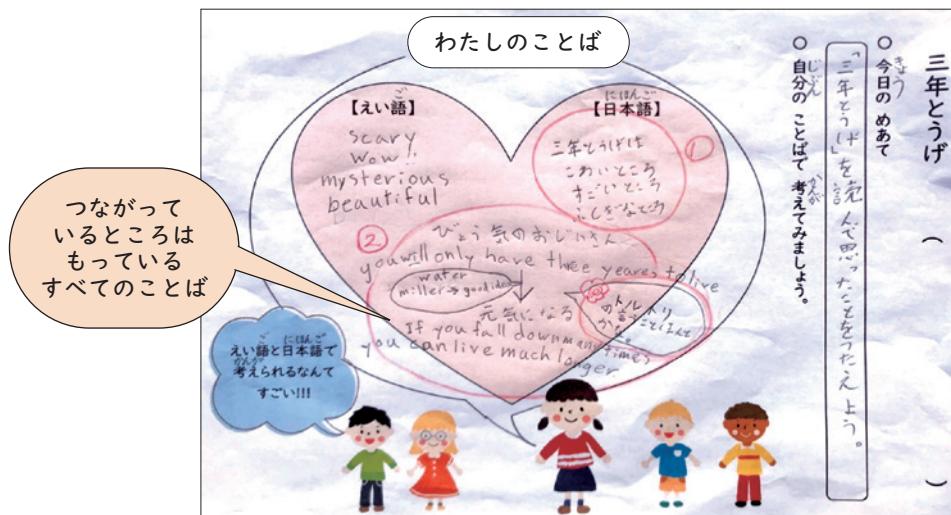
## 指導計画（全2時間）×在籍5時間

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント	
1	〈先行学習〉 「三年とうげ」を読んで あらすじを把握し、自 分のことばで感想を表 現することができる 〈本時〉	「三年とうげ」を読んで、 感想を伝える	☆「三年とうげ」を読 んで感じたことを、 表記に気を付けながら 簡単な複文で自由に書く	★日本語や母語を使っ て、話のおもしろさに 気付いたり、思いや 考えを整理しながら 相手に伝えたりする  ○在籍学級での学習内 容に見通しをもつ
在籍学級 (4時間)	○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる			
2	〈補充学習〉 自分で選んだ民話を読 み、紹介する文章を書 くことができる	母国の民話を紹介する 文章を書く	☆お気に入りの民話を紹介する文章を、表記に気を付けながら簡単な複文で自由に書く	★日本語や母語を使っ て、話のおもしろさに 気付いたり、思いや 考えを整理しながら 相手に伝えたりする  ○在籍学級での学習に 意欲をもつ
在籍学級 (1時間)	〈入り込み指導〉 書いた文章を読み合い、 感想を交わすことがで きる	書いた文章を紹介した り、友達の発表を聞い たりする	☆原稿を見ながら民話の紹介をしたり、交流の際に自然な受け答えをしたりする	★情報を示しながらみんなの前で発表をしたり、質問に対して自分の意見を述べたりする

## 授業の流れ (1/2)

ねらい (目標) 「三年とうげ」を読んであらすじを把握し、自分のことばで感想を表現することができる。

分	学習活動等	指導・支援のポイント
導入 5分	1. ウォーミングアップを行う ・「〇〇さんのことばの強み」を確認する ・本時の学習の見通しをもつ	♡「話す」「聞く」「読む」「書く」の言語資源の状況をホワイトボードで確認する
	2.これまでに読んだり聞いたりした民話や昔話について話す	♡いくつかの民話や昔話を提示し、世界には様々な文化や考え方があることに親しみがもてるようする
展開 (1) 15分	3. 「三年とうげ」の教材文を読む ・ワークシートに今日のめあてを書く  「三年とうげ」を読んで、思ったことをつたえよう。  ・内容を読み取る ・挿絵を話の順に並べることで、あらすじの確認をする ・並べた挿絵を基に、再話をする	★「三年とうげ」について3種類の教材(ルビつき教材、リライト教材、英語に翻訳した教材)を準備し、児童が自分の言語資源を自由に活用できる選択肢を提供する  ★実践者は、リライト教材を読み上げる。児童には、英訳と照らし合わせながら聞くように促す ★本文が理解できない箇所があったとしても、挿絵が助けになるように配慮する ★日本語と英語の両方を使って再話してもよいことを伝える ○話の展開やおもしろいところに気付いているかを確認する
展開 (2) 20分	4. 「三年とうげ」を読み、思ったことや考えたことを伝える ・ワークシートに感想や考えを自由にメモする(資料①) Q 「三年とうげ」はどんなところですか。 Q 「三年とうげ」のおもしろいところはどこですか。 ・メモを基に、感想や考えを日本語でワークシートに書く(資料②) ・ワークシートに書いた内容を声に出して読む	★多言語で思考を整理するためのワークシートを準備する  ★考えがまとまらないときには、手立てとなる質問を投げかける ☆★書くことが難しい場合は、実践者が代わりにメモをとる ☆ヒントカードやセンテンスフレームを示し、日本語で表現することに自信がない場合は、積極的に活用するように助言する ☆★フィードバック用の付箋を提示することで、読み手への意識や文章を整えようとする意欲を高める
まとめ 5分	5. 本時の学習を振り返る ・ワークシートに今日の振り返りを書く	♡自分の言語資源を自由に使って課題に取り組めたことを称赞する。また、多文化多言語環境にあることに誇りがもてるような声かけをする

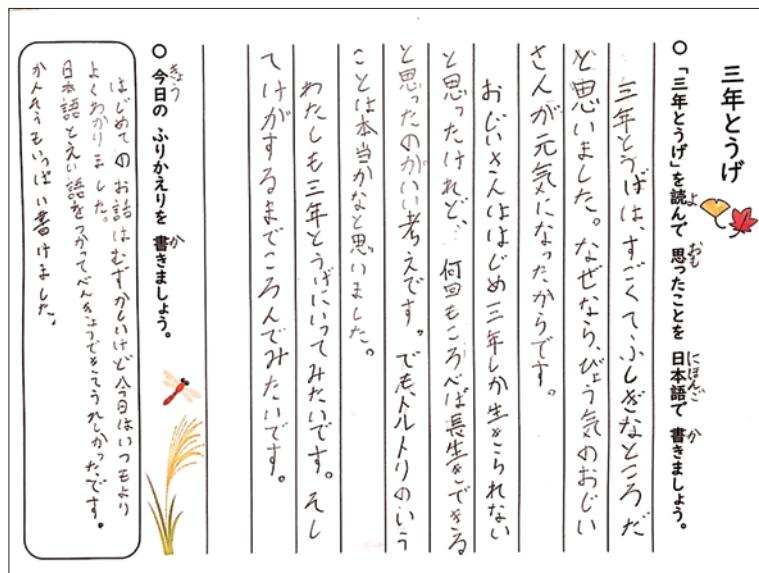


資料① ワークシートを使って、自分のことばで思いを整理

## 子どもの様子＆実践者の気づき

ことばの力の意識化によって、児童は「三年とうげ」の内容を深く読み取ることができました。その結果、多言語で思いや考えをめぐらせながら、日本語で自由に感想を書くこともできました（資料①、②）。日本語だけでの学習時に比べて、書く活動にスムーズに取り組めたことは、児童の大きな自信となりました。

また、フィードバック用の付箋を花束のようにして提示したところ、読み手を意識して文章を整理する姿が見られました。後日、家族や学級担任などからコメントを受け取った児童は、多くの人から応援されていることを実感していました。



資料② ワークシートを基に日本語で感想を書く

### 子どもが輝く授業のデザイン

学級担任とは、対象児童の姿やクラスの様子を分かち合い、目的やつけたい力を共有しながら本実践を進めました。この連携によって、児童は在籍学級の温かい雰囲気の中で、自信をもって母国の民話紹介などに取り組むことができました。生き生きとした表情で堂々と発表する児童の姿を目にしたことで、クラスメイトの対象児童に対する意識も、「日本語も英語もできる素敵な子」へと変化していきました。

本実践を通じて、対象児童は包括的なことばの力の活用方法に気づき、それを価値あるものとして普段の学習にも積極的に取り入れるようになりました。

**小学生  
(3年)**

**9 在籍学級につなげる先行学習・算数  
円と球一まるい形をしらべよう (東京書籍)**

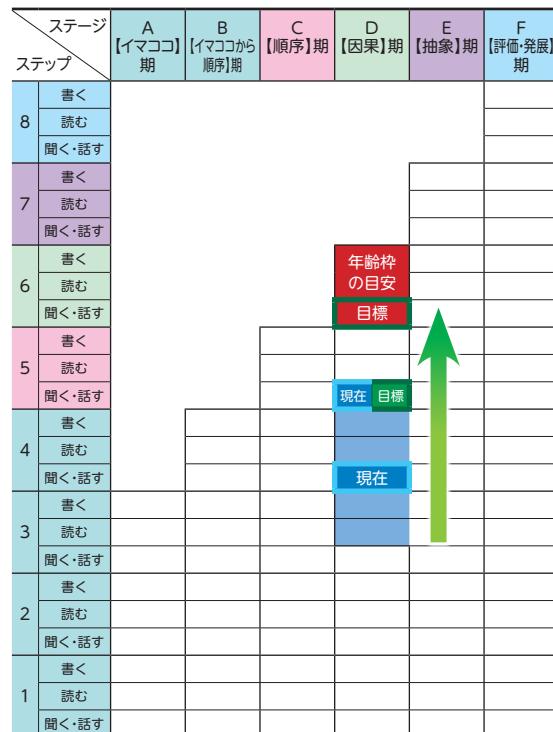
**対象者・対象グループ**

学年	小学3年生	人数	2名
滞日年数	1年1か月	1年3か月	
つながりのある国	アメリカ合衆国		
母語	英語		
就学歴など	母国で幼稚園・小学校を過ごし、小2の2学期に来日して現在の学校に編入 日本語の基礎の学習をほぼ同時期に終了した 同学年の児童		

**ココを見た！**

	日本語	母語
聞く・話す	DLA 取り出し指導での観察 在籍担任からの聞き取り	本人と家族からの聞き取り
読む	DLA 取り出し指導での観察 在籍担任からの聞き取り	本人と家族からの聞き取り
書く	DLA 取り出し指導での観察 在籍担任からの聞き取り	—

**ステージ×ステップ**



**包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ**

ステージ (一番高い言語・技能)	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input checked="" type="checkbox"/> 母語 (英語)	D
ステップ	聞く・話す 4~5	読む 3~4	書く 3~4

**実践の背景**

実践対象者は、ほぼ同時期に来日した同学年の二人である。滞日年数はまだ1年強であるものの、教科につながる学習でも意欲的に取り組んでいる。だが、教科書の読解では日本語の支援を要するため、在籍学級では日本語で話し合ったり、発言したりする活動はあまり参加できていない。特に、算数では母国とのカリキュラムの違いもあって、自信をもって在籍学級での算数の授業に参加できていないという状態である。

そこで、本実践では、算数科の図形領域の学習から日本語の力を高める学習を計画した。包括的なことばの力を使って理解することができる児童二人であるため、母語が同じ児童同士の学び合いの効果をねらって小集団を編成した。視覚的な資料や体験的な活動をふんだんに取り入れながら、日本語と教科の内容を結び付ける支援の工夫を通して、在籍学級での算数学習につなげていく。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
	✓		
個人	小集団	大集団	オンライン
	✓		

## 実践の概要

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>円や球を構成する要素や性質について数理的表現を理解し、コンパスを用いた作図ができる</li> <li>円や球を構成する要素に着目し、構成の仕方や図形の性質について、数理的表現やモデル文を適切に活用して説明することができる</li> </ul> <p>〈目標の力：D 5～6〉</p>		
目標に向けた重点活動	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
指導形態 取り出し指導	指導扱い 特別の教育課程 (教科につながる指導)	指導時間 週1 (90分) 本時は45分	

### 実践の見どころ

本実践は、取り出し指導による先行学習の実践です。対象児童である3年生の二人は学習意欲は高いものの、在籍学級の授業では日本語で考えを説明したり、分かったことを話したり書いたりすることが難しく、自信をもって授業に参加できていません。そこで、視覚的な資料や体験的な活動を多く取り入れることで、算数で日本語の力を高める授業に取り組みました。

円の性質や特徴を捉えさせるため、まず運動会のダンスの大きな円や玉入れゲームの場面を動画や写真を作って想起させました。その後に、地面に大きな円をかく活動や簡易コンパスで簡単な円をかく活動など、体験的活動や操作活動を行ったところ、中心から円周までの長さがどこでも等しくなっていることに自ら気づいて、そのことを母語で補いながらも日本語で説明できたのです。円や球を構成する要素や性質を理解できたことは、適切な日本語で伝えたいという意欲にもつながりました。これらは児童にとって大きな自信になったようで、在籍学級で手を挙げて発言する、という積極的な姿にも結びつきました。

## 指導計画（全3時間）

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント
1	前学年までの復習をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>「直線」「道のり」「きょり」「三角形」「四角形」「長方形」「正方形」などについて学習する</li> </ul>	<p>☆三角形や四角形の構成や性質について、数理的表現で復習する</p> <p>★○視覚的資料を活用して三角形や四角形の構成や性質について理解する</p>
2	円を構成する要素や性質について理解し、コンパスを用いた作図ができる（本時）	<p><b>円をしらべよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心からの長さに着目して、円の特徴について考える</li> <li>コンパスで円をかく</li> </ul>	<p>☆数理的用語や表現の意味理解について、これまでの経験と結び付けたり漢字に着目したりする</p> <p>☆学習したことを説明したり、まとめを書いたりするとき、板書の構造化やモデル文提示などの支援をする</p> <p>★○体験的活動や操作活動を仕組んで円の構成や性質の理解を促す</p> <p>★わかったことを話したり感想をまとめたりするとき、事例や理由を挙げながら表現の支援をする</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>球の特徴について理解する</li> <li>単元の学習を振り返り、学習内容の定着を確かめる</li> </ul>	<p><b>球をしらべよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>球の特徴について考える</li> <li>練習問題に取り組み、学習内容の習熟・定着を確かめる</li> </ul>	<p>☆球の構成や性質について、学習した用語や既習の文型を用いて説明したりまとめたりできるよう、理解支援や表現支援を行う</p> <p>★○視覚的資料を活用して球の構成や性質について理解を促す</p>

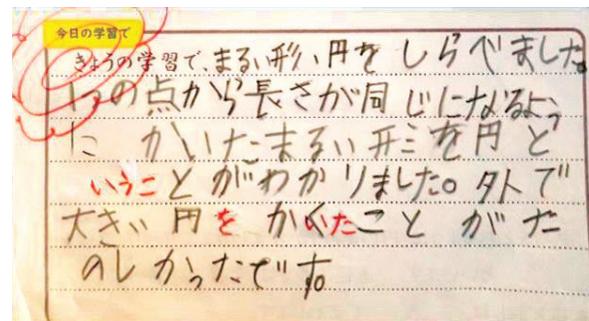
## 授業の流れ（2/3）

ねらい（目標）円を構成する要素や性質について理解し、コンパスを用いた作図ができる

分	学習活動等	指導・支援のポイント
3	1.身の回りにある様々な形を提示し、丸い形に目を向ける	☆算数では『さんかく』が「三角形」を想起しながら、『まる』が「円」を捉えることができるよう支援する
15	2.まるい形について考える ・中心からの長さに着目してまるい形について考える	○運動会のダンスの大きな円や玉入れゲームの場面を想起させる（動画や写真の提示） ♡学校生活と結びつけながら示す ★地面に大きな円をかく活動（資料①）、簡易コンパスで円をかく活動を通して、中心から円周までの長さはどこも等しくなっていることに気づけるように支援する
<b>めあて 円をしらべよう</b>		
10	3.用語を知り、円の構成や性質について理解する ・「中心」「半径」「直径」の用語の意味や直径と半径の関係を理解する	○図を示しながら、「中心」、「半径」、「直径」ということを視覚的に捉す ☆「中」「心」「半」「直」の漢字の持つ意味やイメージ、類似の語などについて話し合いながら、用語の意味理解を強める ♡漢字への関心と学習意欲を高める ・算数のことばやモデル文などを板書の定位置に示す
10	4.コンパスを使って円をかく ・コンパスを使った円の書き方を知る ・数理的用語を使って、円のかき方の説明を考える ・コンパスで半径4cmの円をかく。発展として、円を使った模様をかく	○★大きな円を描いた活動や簡易コンパスの活動と比較しながら、コンパスで作図できるように支援する
7	5.今日の学習のまとめをする ・学習で分かったことを話し合ったり、ワークシートに書いたりして、本時の学習をまとめる	★わかったことや感想を話し合う ☆モデル文や板書を参考にしながら、数理的用語を使って「今日の学習で」を書くことができるよう促す（資料②） ♡友達の考え方や表現の良いところを認めながら、在籍学級での学習への意欲を高める



資料① 地面に大きな円をかく活動



資料② 今日の学習のまとめ

## 子どもの様子＆実践者の気づき

対象児童は、周囲の行動を確かめてから行動したり、誰かが教えてくれるのを待つたりしがちでしたが、本実践では自分から発言したり活動したりして、積極的に学習することができました。体験的な活動や操作活動を多く取り入れたことで、児童は自分の知っていることや体験と本単元のキーワードである「中心」「半径」「直径」など用語を結びつけながら、説明したりわからないことを質問し合ったりするなど、活発に発言する姿が見られました。

本実践の対象児童は日本語の語彙量や話す力の異なる二人ですが、お互いの考え方や表現の仕方を補い合うことで、最後は円や球の数理的な性質を日本語で説明することができました。本実践を通じて、日本語で算数の学習内容について説明したり話し合ったりできた楽しさを実感したようでした。その気づきや自信を得たことで、在籍学級での学習への意欲を高めることができたようです。

自信をもって学習に向かうことができた児童は、本実践後に行われた在籍学級での算数の授業でも、自ら挙手して発言することができました。難しい表現があっても、指差しやジェスチャーを使い、部分的にわからないことばを母語で補いながら（トランス・ランゲージング）、自分の考えを何とかして伝えようとする姿もみられるようになりました。

### 子どもが輝く授業のデザイン

本実践の工夫は、包括的なことばの力と五感をフルに活用して、算数の学習内容を理解できるようにしました。視覚的な資料を活用したり体験的な活動を取り入れたりして、数理的用語や表現と意味とを結び付けて理解を促しました。円の特徴について理解するため、まるい形の導入として、運動会のダンスの大きな円や玉入れゲームの場面を想起させました。また、実際に地面に大きな円をかいたり、簡易コンパスで円をかいたりするなど、体験的な活動や操作活動を取り入れたことで、中心から円周までの長さがどこでも等しくなっていることに、自ら気づくことができました。それは、これまでの経験を根拠に、包括的なことばの力をつかって考えたことによって得た「気づき」でもあります。児童の持つ力が引き出されていくことを実感しました。

在籍学級での単元末テストでは高得点（95点と90点）で、特に数理的な内容を含む文章題でも、日本語の文意を理解して正答できていました。そのことからも、児童が数学的思考を伴う内容を十分に理解できた、と在籍学級の担任と評価しました。在籍学級の授業で自信を持って学習に参加している様子からも、今後もさらに自分らしさを発揮しながら学習や学校生活に向かっていけると期待しています。

小学生  
(4年)10 在籍学級につなげる先行学習・図画工作  
五感を使って物語をつくろう—絵から聞こえる音 (鑑賞教材・開隆堂)

## 対象者・対象グループ

学年	小学4年生	人数	6名
滞日年数	日本生まれ・日本育ち		
つながりのある国	ブラジル フィリピン 中国		
母語	家庭では母語 (ポルトガル語 フィリピン語 中国語) と日本語 (特に兄弟姉妹間)		
就学歴など	地域の幼・保育園卒園後に現在の小学校に入学		

## ココを見た!

	日本語	母語
聞く・話す	DLA 日常での観察	保護者とNPOからの聞き取り*
読む	DLA 多読活動 (取り出し指導) での観察	—
書く	日常での観察	—

\*地域には多文化多言語の児童の学習サポートや大人への日本語教室を行うNPOがあり、対象児童は幼い頃から親子で同活動に参加している

## 包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ (一番高い言語・技能)	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 (2人) <input checked="" type="checkbox"/> 母語 (4人) <input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く	B～D	
ステップ	聞く・話す 4～5	読む 4～5	書く 4～5

## 実践の背景

対象児童は、好きな教科であっても、在籍学級では日本語で表現しなければならない場面になったとたん、下を向いてしまう。人前で発表することに苦手意識が強いために、在籍学級での授業では積極的な参加ができない児童もある。漢字が苦手であるために、作文などの書く活動を特に嫌う。

そこで、在籍学級が異なる日本語指導が必要な4年生全員を対象に、各児童の強みを生かしたグループ構成で活動を進めることで、互いの弱い力を育てるという相乗効果 (児童間の学び合い) をねらって小集団を編成した。在籍学級よりも先行して学習し、在籍学級で活躍できる場を在籍学級の担任と連携してつくることで、児童の自己肯定感を高めながら苦手な書く力を育てることをめざした。

## ステージ×ステップ



サバイバル (初期指導)	取り出し指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
	✓		
個人	小集団	大集団	オンライン
	✓		

## 実践の概要

ねらい	身近にある絵（外国の子どもが描いた絵）を見て、聞こえてくるように感じる音（声）を用いながら、五感を使って自分のことばで描写することができる 〈目標の力：C5・D5～6〉		
目標に向けた重点活動	<input type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
指導形態 取り出し指導	指導扱い 特別の教育課程 (教科につながる指導)		指導時間 週1（1回45分）

### 実践の見どころ

本実践は、取り出し指導による先行学習の実践です。対象児童は、書くことに強い苦手意識を持っています。特に、作文と漢字が嫌いです。そこで、対象児童とつながりのある国（日本）の子どもが描いた絵を実際に観賞しながら、書く力を高める活動を行いました。つながりのある国（日本）の絵のパワーによって、児童はルーツを考えたり誇りを持ったりすることができたようです。その力で児童の筆はぐんぐん走り、授業終了のチャイムが鳴るまで止まりませんでした。そして、聞く・話す力を生かしながら、多文化多言語のなかで生きる児童だからこそその強みが表出した物語を、いずれの対象児童も書くことができました。

この学習が在籍学級での学習につながり、対象児童が自信を持って発言できるように、実践者は学級担任との連携を図りました。それによって、在籍学級での単元学習時では、自ら手をあげて発表する児童の姿を見ることができました。

## 指導計画（全2時間）

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント	
1	絵から聞こえる音（声）を自分のことばで表現できる（本時）	身近にある絵を鑑賞する①	☆考えた物語を様々な接続表現などを用いて、人前で日本語で発表する	○★絵を見て、聞こえてくるように感じる音（声）について音声イメージ（例：ペラフラ）を用いながら五感を使って物語をつくる
2	感じた音や声をもとに物語を作ることができる	身近にある絵を鑑賞する②	☆考えた物語を日本語で書く	★五感を使って描写したり、イメージを膨らませたりしながら物語づくりに取り組む

## 授業の流れ（1/2）

ねらい（目標） 絵から聞こえる音（声）を自分のことばで表現できる

分	学習活動等	指導・支援のポイント
導入 10分	0.挨拶 1.対象児童のつながりのある国に暮らす子どもが描いた絵から、好きな絵を選ぶ（資料①）	○世界のこども美術館として絵画を紹介する。つながりのある国（日本）の子が描いた絵を通じて、自分のルーツに関心を高めることができるよう促す
	2.各グループで、1枚好きな絵を決める ・絵を選択した理由をグループ別で発表する	★話し合ったことやその理由について意見をまとめ、人前で説明できるように支援する

分	学習活動等	指導・支援のポイント
展開 30分	3. 絵から聞こえる音（声）をつかってお話をつくる • 各グループで選んだ絵を見て、「絵からどんな音（声）が聞こえるか」に個人で取り組む • 各自分が好きな「音（声）」3つ使ってお話をつくり、発表する	◇世界のこども美術館の場面を変え、学習意欲を高める ★☆ホワイトボード小とペンを各自に配布し、聞こえてくるように感じる音の音声イメージを思いつくままに書き出せるように促す ★教科学習内容やこれまで経験したことなどを統合しながら物語をつくれるように促す ☆考えた物語を日本語で発表できるように支援する
まとめ 5分	4. 今日の振り返り	◇仲間の良いところを認めながら、次時の学習に意欲を高めることができるようとする

### 子どもの様子＆実践者の気づき

目の前の「世界のこども美術館」が次々に変わる工夫もあってか、対象児童は教科の目標である「絵の鑑賞」を楽しみながら、積極的に日本語で書く活動に取り組むことができました。特に、創作した物語を互いに発表しあう時間では、実際に書いた作文を声に出して読み合うことで、自ら書いた文章を修正したり加筆したりする児童の姿がありました。また、友達の発表を聞くことで、それを参考にしてイメージをふくらませて、自分が書いた物語を見直す児童もいました（資料②）。

本実践では、作文用紙に書くか、タブレットで打つか、の選択を児童に任せました。それによって、いつもは1行の文でも書くことを嫌がる児童も、想像力を広げながら思い浮かんだ物語を楽しみながら文章化するという、これまでにない姿をみることができました。



資料① 食い入るように絵を鑑賞する児童たち



資料② B 4 の児童の作品

### 実践者のコメント

書く前に取り組んだディスカッションを通して、絵の中にある子の会話をイメージしながら自ら書き進めることができた。「私、書くのがすき！」と言いながら、絵から考えた物語を日常語彙と既習漢字を使いながら原稿用紙1枚半もの分量を積極的に書いたことに、たいへん驚いた。

ある日の夏、ぼくとおかあさんとお父さんとくるまにのって海へきました。くるくると車のたいやがまわり音楽の音がしたので、3人は、海の方にいきました。うみは、ザブーンと言っています。のぞいたら、2人のしないひとがいました。ぼくは、酔っ払いだとおもっていたけど、かくとうぎでした。(すごいなー。)とおもいました。たのしそうだったからぼくも「していい。」といったら「いいよ。」といってくれました。そしてやりました、楽しかったです。周りの人がピーピーとふえを鳴らしておわりました。たのしかったのでもう一回してみようともいました。おしまい。

資料③ C 4 の児童の作品

### 実践者のコメント

書いたものを読み合う中で、自分を絵の場面に登場させながらお話づくりに取り組む姿が印象的であった。書き進めていくうちにいろんなイメージが膨らんでいったことから、絵に登場する人と会話をするというアイデアと絵から感じる音を織り込みながら、かつ楽しみながら、物語を作ることができた。

## 子どもが輝く授業のデザイン

先行学習を終えて、在籍学級での図画工作の授業時のこと。人前で発言しないC 4の児童が、担任の先生から「発表してくれる人」と声がかかると、真っ先に手を挙げました。そして、取り出し指導で学習した自作の物語を読みあげると（資料③）、同級生からは自然に拍手がおこりました。すると、C 4の児童に続いてもう一人の児童も自ら手を挙げ、堂々と発表することができたのです。

取り出し指導での先行学習が児童の「少しの自信」となり、在籍学級で手を挙げる力にもなりました。その力を担任の先生や友だちから受け止められた児童の姿に引き寄せられて、もう一人の児童のやる気にもスイッチが入った瞬間でした。それは、在籍学級との連携が生きた瞬間でもありました。

実践者 江口 修三（広島県呉市立白岳小学校 教諭・国際教室担当）  
報告書・実践記録集No.14

小学生  
(4年)11 母語支援員と連携した在籍学級での教科学習・体育  
大人になるってどういうこと? (「育ちゆく体とわたし」大日本図書)

## 対象者・対象グループ

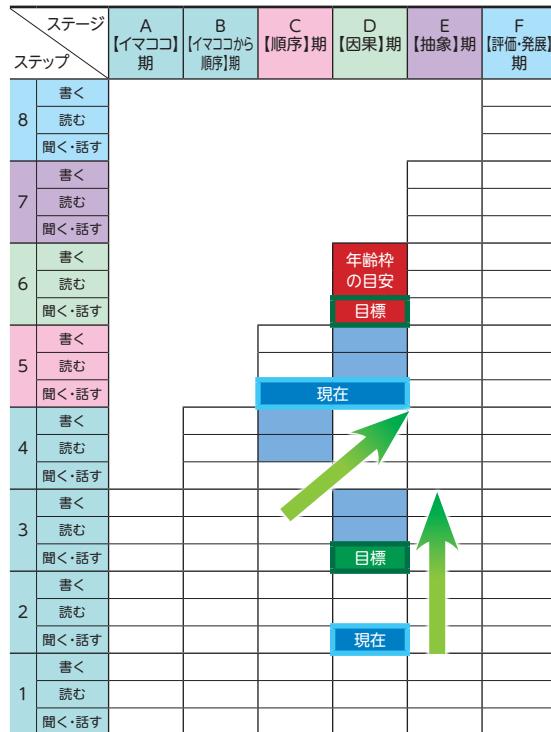
学年	小学4年生	人数	3名
滞日年数	6か月 5年3か月 6年1か月		
つながりのある国	ベトナム		
母語	ベトナム語		
就学歴など	サバイバル(初期集中・約3か月間)を修了したばかりの児童(1名)と、就学前に来日した児童(2名)の計3名。いずれもベトナムにつながる児童		

## ココを見た!

	日本語	母語
聞く・話す	日常での観察 DLA	DLA* 母語支援員による日常での観察
読む	日常での観察 DLA	DLA*
書く	日常での観察	—

\*来日半年の児童のみDLAを母語で実施

## ステージ×ステップ



## 包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ (一番高い言語・技能)	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 母語 (ベトナム語) <input checked="" type="checkbox"/> 聴く・話す <input type="checkbox"/> 読む <input checked="" type="checkbox"/> 書く	C～D	
ステップ	聞く・話す 2と5	読む 3～5	書く 3～5

## 実践の背景

思春期の発来は、児童生徒の日本語習得を待ってはくれない。言語や文化の障壁のために十分な準備のないまま思春期を迎えている子どもがいる可能性も、市内外の外国人コミュニティの関係者から指摘してきた。本実践は、そのような問題意識から始まつた取り組みの一環である。

外部の協力者の協力を得て、本校の全教職員と市内の日本語教育指導支援員が合同で研修を受け、保護者も招いて4～6年生対象の学校保健委員会講演会を開くなどして本実践に至った。思春期準備教育では、単に体や心の変化についての知識だけでなく、「男女平等の意識」や「多様な性(個性)への理解」といった価値観を学級全体に養うことも課題となる。価値観は一方的に教え込むものではなく、子どもたち同士の意見交換を通した「気づき」を支援することが重要となる。本実践は思春期準備教育への導入の時間にあたるが、多文化多言語の児童が学級の意見交換に参加し、その「気づき」を体験できるように工夫したいと考えた。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
		✓	
個人	小集団	大集団	オンライン
	✓		

## 実践の概要

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢に伴う心と体の変化と個人差、思春期の体の変化、体をよりよく発育・発達させるための生活について理解することができる（知識・技能）</li> <li>心の変化や体の発育・発達について、課題を見つけ、その解決に向けて考え、それを表現することができる（思考力・判断力・表現力等）</li> <li>心の変化や体の発育・発達について、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組むことができるようとする（学びに向かう力・人間性等）</li> </ul> <p>〈目標の力：D3・D6〉</p>			
	<b>目標に向けた重点活動</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input type="checkbox"/> 書く
<b>指導形態</b>	在籍指導と入り込み指導	<b>指導扱い</b>	在籍学級	<b>指導時間</b> 週1（1回45分）

### 実践の見どころ

思春期準備教育の導入にあたる本時では、学級のみんなでジェンダーをめぐる意識をふりかえり、自らと互いの「自分らしさ」を尊重し合う雰囲気づくりをねらいとしました。日本語の力に関わらずすべての児童が楽しく参加できて、学級のみんなの「気づき」を一緒に体験できるように工夫しました。そのために、難しい単語（職業名）にふりがなと絵の解説をつけ、体を使ったワークとやさしい日本語で書かれた絵本の読み聞かせを取り入れ、母語を同じくする児童同士がディスカッションする時間も設けました。

3ヶ月間のサバイバルの学習を修了したばかりの児童も、全身を使って「男らしさ・女らしさ」のワークに参加して、ふりかえりの時間には自分の意見を母語でシートにびっしりと書いていました。「おとこ」は「だんせい」、「おんな」は「じょせい」とも言うのだと授業中に気付いたようで、「だんせい、じょせい」と連呼している姿も印象的でした。

## 指導計画（全5時間）

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント	
1	单元導入 「男らしさ・女らしさ」について考える 〈本時〉	・体を使ったワークや絵本の読み聞かせを通じてジェンダーをめぐる意識についてふり返る	☆絵本の読み聞かせにそって、ひらがなを目で追うことができる	○★本時を通じて学級全体が体験する「気づき」を共有することができる
2	これまでの身長や体重の変化を振り返る	・身長が伸びたり体重が増えたりする時期やその変わり方は一人一人違うことに気づかせる	☆自分自身の体に起きる変化を表す言葉が理解できる	○★自分自身の体に起きてきた変化を振り返り、これから起きる変化について理解できる
3	思春期に起きる体の中の変化について知る①	・生殖に関係する体の中と外の部位の名称と働き、月経・精通の始まりなど、思春期に起きる変化やその仕組みについて知る	☆生殖に関係する言葉（ちつ、いんけい、子宮、精巣、月経など）がわかる	○★医学的な知識に関係する新しい語彙を理解できるように支援する
4	前時の振り返りと思春期に起きる心の変化について知る②	・前回の授業の振り返り ・思春期に起きる心の変化と人の性の多様性について知る	☆語彙が難しい前時を振り返り、理解が不十分だった点を補う	○★相談にのってくれる保護者などの「信頼できる大人」は誰か考える

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント
5	よりよく育つために必要なことについて理解させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の全体を振り返る</li> <li>・適度な運動やバランスの取れた食事と十分な睡眠が必要であること気づかせる</li> </ul>	<p>☆運動、栄養、睡眠、休養などに関する言葉が理解できる</p> <p>○★自分自身がよりよく育つために必要なことについて理解し、保護者や他の「信頼できる大人」に相談できる</p>

## 授業の流れ（1/5）

ねらい（目標）「男らしさ・女らしさ」について考える

分	学習活動等	指導・支援のポイント
5	1. 「消防士」「パイロット」「看護師」「保育士」などの職業名を挙げ、連想される姿が男性か女性かを考える	<p>☆職業名と、それをイメージできる絵を並べた絵カードを準備する <u>*男か女かを連想させない絵を選んで使用する</u></p> <p>☆漢字には絵のような（象形的な）ものがあること、「男」の漢字には「力」、「女」には「子抱き」イメージが字源となっていることに触れる</p>
20	<p>「男らしさ」、「女らしさ」とは何なのか考えてみよう</p> <p>2. 体を使って「男らしさ」、「女らしさ」のイメージを表現してみる (資料①～②)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの思うやり方で「男らしく」走る、「女らしく」走るを表現する</li> <li>・「投げる」、「座る」などの仕草をそれぞれの思うやり方で「男らしく」、「女らしく」表現する</li> <li>・(男らしく・女らしくと言われると全く異なった振る舞いをするので)「本当にそんなふうにやる(走る・投げる・座る)？」と問いかける</li> <li>・(「やらない」と答える児童に)「じゃあ、どうしてそんなふうにするの？」と問いかける</li> <li>・児童の経験談や、それぞれの考えを聞く</li> </ul>	<p>♡全員で参加できる「体を使ったワーク」に時間を割く ☆「男」と「女」、「男性」と「女性」、両方の言い方を使う</p> <p>★「女らしく」という指示に対して、児童が「なよなよした」仕草を見せるなどを予想し、「実際は、普段誰もそんなふうにしないよね」という問いかけする</p> <p>*この問いかけは重要であるため、多文化多言語の児童にも確実に伝わるように工夫する</p> <p>★男女観をめぐる今後の学級の雰囲気が決まっていく重要な場面であるため、学級で出てくる発言が理解できるように来日半年の児童には母語支援員がサポートする</p>
15	<p>「男だから」、「女だから」という理由で「自分らしさ」を表現できなかったり、人の「自分らしさ」を否定したりすることはよくないことを理解しよう</p> <p>3. 絵本の読み聞かせと意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ後、絵本が伝えようとするメッセージや感想などについて話し合う</li> <li>・話し合った内容を発表する</li> </ul>	<p>☆来日半年の児童に母語支援員がモニター画面に大きく表示されるひらがなの文章を追うサポートする</p> <p>★意見交換は多文化多言語の児童同士で組めるようにする ★来日半年の児童が参加できるように母語支援員がサポートする</p>
5	4. 本時の振り返りをする	<p>★♡来日半年の児童には母語で感想を書いてよいと伝える</p>
	・本時の振り返りを指定用紙に書いて提出する (資料③)	



資料① 「男らしくボールを投げてみて」の指示に応える児童たち



資料② 「男らしく走ってみて」の指示に応える来日半年の児童(中央)



資料③ 振り返りシートにベトナム語\*で記入する来日半年の児童

\*振り返りシートの内容（日本語教育指導支援員による翻訳）：私にはこの話がとても面白いと思いました。人それぞれに違った趣味があるので、他の人をけなさないほうがいいです。他の人をけなすと、相手はとても悲しくなります。男子でも女子でも関係ありません。他の人をけなすと、自分もけなされることになります。だから、誰かをけなすのはやめましょうね。

## 子どもの様子&実践者の気づき

体を使ったワークでは「女らしく」と指示されただけで、学級の児童も多文化多言語の児童も、ほぼ全員が「なよなよした」仕草を見せました。実践者が、「でもね、実際は普段誰もそんな仕草はしていないよね」と問い合わせたところ、学級全体がハッとする瞬間がありました。性別による振る舞いや在り方について、いつの間にか身につけてしまっていた固定観念（ステレオタイプ）に気づいた瞬間でした。その「気づき」を、来日半年の児童もみんなと一緒に体験できたことは、固定観念に捉われない学級の雰囲気づくりに参加していく上で大切なことでした。

滞日年数の長い児童2名は、いくつかの職業から連想される性別がクラスの仲間とは異なる場合がありました。それらの職業について本国ではどのようなイメージがあるのかを事前に母語支援員に確認しておくとよかったです。

### 子どもが輝く授業のデザイン

絵を使って「職業名」を提示することも、体を使って「男らしさ・女らしさ」を表現することも、やさしい日本語で書かれた絵本を読み聞かせすることも、多文化多言語の児童の包括的なことばの力を総動員させる工夫として試みましたが、他の児童にとっても何らの違和感なく、自然な成り行きで誰もが楽しく参加できたと感じています。4年生の保健の授業から始まる思春期への準備教育は、普段使わない語彙が多出し、またデリケートなテーマを扱う単元であることから、日本語固有の力が低い児童への配慮が必要とされる課題です。そこで、単元導入に十分な時間を割くことで、来日半年の児童も臆せず参加し、男女平等の意識や性の多様性への理解など、単元全体を貫く精神に触れることができました。そのことは、具体的な事例とともに理由を挙げながら自分の意見をまとめた振り返りシート（資料③）からもよくわかります。

本時を隣の学級で実践した時のこと。ブラジルにつながる児童に「ポルトガル語では男・女ってどういうの？」と聞いてみたところ、児童は生き生きとした表情で紹介してくれました。そんな些細なことで、母語やルーツに自信を持たせることができるのだなと感じました。

実践者 永塚 史穂（愛知県西尾市立西野町小学校担任教諭） 本谷優果（同 養護教諭）

協力者 菊池 寛子（日本語初期指導教室カラフル室長） ヴ ティト（同 支援員）

外部協力者 小貫 大輔（東海大学教授）・齊藤奈月（同 大学院生）

報告書・実践記録集No.17

**小学生  
(小4～5)**

**12 プロジェクト活動  
運動会のプログラムを作ろう**

**対象者・対象グループ**

学年	小学4～5年生	人数	3名（4年生2名、5年生1名）
滞日年数	1年 1年半 計9年だが再来日後は2年半		
つながりのある国	ポルトガル アメリカ ブラジル		
母語	ポルトガル語 英語		
就学歴など	小学校中・低学年年齢で来日した児童A・B（出身国での学習経験がある）と、移動を繰り返し小学校中学年で再来日した児童C（出身国での学習経験がない）の滞日年数が1～2年半の児童グループ		

**ココを見た！**

	日本語	母語
聞く・話す	DLA	母語でのDLA 日常での観察
読む	DLA	—
書く	日常での観察	母語での作文

**ステージ×ステップ**



**包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ**

ステージ (一番高い言語・技能)	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 母語（ポルトガル語 英語） <input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く	<b>D～E</b>	
ステップ	聞く・話す 3, 5	読む 3～5	書く 2, 4

**実践の背景**

本実践のテーマである「運動会」は公立小学校の恒例行事であるが、そのプログラムは地域性や学校の特色を強く反映しており、対象児童のような編入児や日本語非母語の保護者にとって、学校で配付されたプログラムを翻訳しただけでは競技内容を理解しにくい。そこで、在籍学年や母語、滞日期間、運動会経験が異なる児童3名で小集団を編成し、多文化多言語の転編入児や日本語非母語の保護者にもわかりやすい運動会プログラムを作成することとした。

プログラムの作成にあたっては、各児童が持つ運動会経験や日本語力、包括的な力の違いを活かし、協働作業を進めることで互いに学び合う場を創出することを目指した。また、3名は日本語力への不安から在籍学級での発表を苦手としている児童であるため、作成したプログラムを管理職の前で発表する機会を設け、発表力の向上を図った。さらに、学校関係者を活動に巻き込むことで、子ども達や保護者の日本語能力などの現状を共有できる場となるようにした。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
	✓		
個人	小集団	大集団	オンライン
	✓		

## 実践の概要

ねらい	本校の運動会を経験したことがない児童や日本語非母語の保護者がわかるように、今年度の運動会プログラムを作ることができる (目標の力:D4・E6)		
目標に向けた重点活動	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input type="checkbox"/> 書く
指導形態 取り出し指導	指導扱い 特別の教育課程 (プロジェクト活動)		指導時間 週3 (1回45分)

### 実践の見どころ

本実践は、小学校の恒例行事「運動会」をテーマに、取り出し指導で行ったプロジェクト活動です。対象児童3名は、在籍学年や母語、滞日期間、運動会への経験値が異なりますが、いずれも過去に日本の運動会に馴染みのなかった共通の経験を有しています。この経験を踏まえ、多文化多言語の児童や日本語非母語の保護者の立場を想像し、学校配布の運動会プログラムを「どこが分かりにくいか」「どのように表現を工夫すれば理解しやすいか」を話し合い、現行プログラムの修正に取り組みました。作業の過程では、包括的なことばの力を活かし、児童たちが協働しながら多面的な力を発揮しました。また、発表に不安を感じる児童のため、管理職と連携して安心して発表できる場を整え、多彩な能力を十分に発揮できる環境を作りました。

この実践は、児童の成長を促すとともに、学校配布物の改善や多様性を尊重する教育の一環として大きな意義を持つものです。

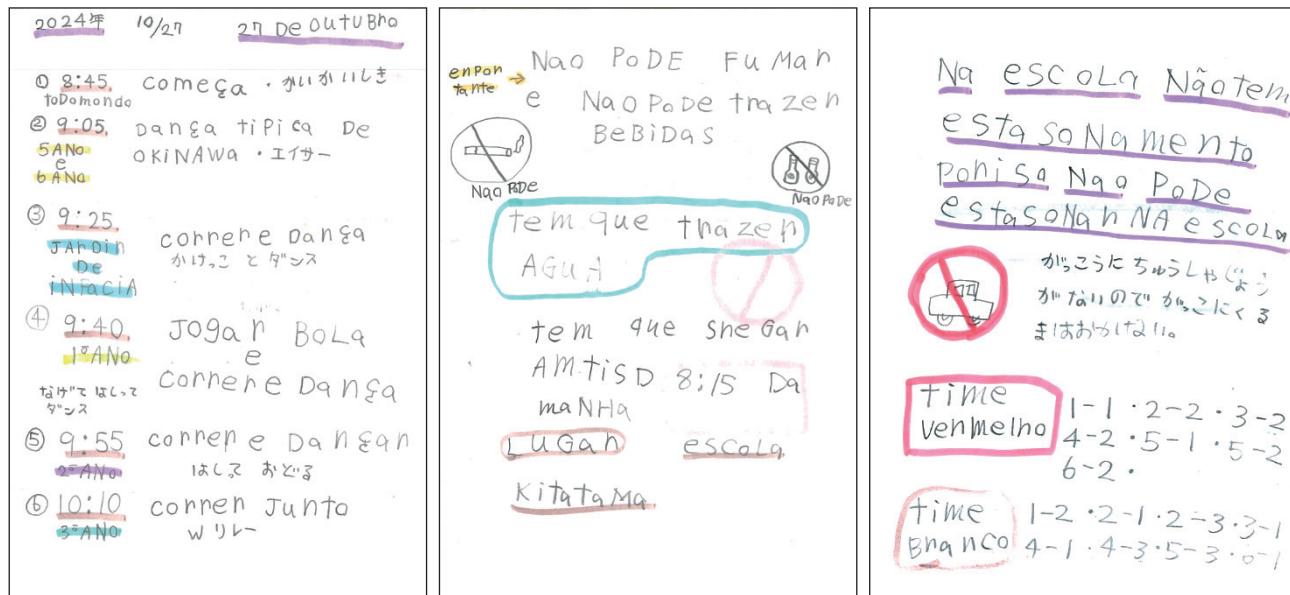
## 指導計画 (全3時間)

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント
1	現行の運動会プログラムを確認し、本校の運動会を経験したことがない人が理解しにくい部分を見つける	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会について知っていることを話し合う</li> <li>昨年の運動会のビデオを見て、自身が経験した別の運動会との違いを探す</li> <li>現行プログラムのわかりにくい箇所に赤丸印をつけ、理由を考える</li> </ul>	<p>☆運動会について、高頻度の日常語彙や表現を使って、簡単な文で話す</p> <p>☆ビデオを見ながら、運動会プログラム内の重要語(未知語も含め)を聞き取ることができる</p> <p>★運動会のプログラムについて、既存知識を活用しながら未知語の意味を理解し、相手に応じた適切な語彙や表現方法を考える</p>
2	運動会のオリジナルプログラムを作る (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年の運動会のプログラムを見て、日付や時間、種目等を確認する</li> <li>運動会未経験者が見て、理解できるような表現の工夫を考える</li> <li>プログラムの作成 (資料①)</li> <li>宿題：保護者に保護者が経験した母国の運動会について聞く</li> </ul>	<p>☆高頻度の日常語彙・表現を使って、簡単な文で話す</p> <p>☆様々な表現を用いて、運動会未経験者がイメージできるようにプログラムや競技について話ができる</p> <p>★運動会未経験者がイメージできる方法について、考えを述べる</p> <p>♡母語も書けることを周囲に知ってもらうことで、自分の強みに気づく</p> <p>♡ルーツの文化や習慣について家族と共有する</p>
3	オリジナルプログラムを発表する	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題の発表をする</li> <li>プログラムを仕上げ、発表の練習</li> <li>管理職等に自作プログラムの発表</li> </ul>	<p>☆様々な表現を用いて、自作プログラムについて結束性をもった発表ができる</p> <p>★集めた情報を示しながら、人前で発表する</p> <p>★具体的な事例とともに自分の考えを述べる</p>

## 授業の流れ (2/3)

ねらい (目標) 運動会のオリジナルプログラムを作ろう。

分	学習活動等	指導・支援のポイント
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師自作の「やさしい日本語」による運動会のお知らせを見て、わかりづらい箇所を探す</li> <li>今年配付された運動会のプログラムを見て、運動会の日付や時間、種目等を確認する</li> <li>めあての確認</li> </ul>	<p>☆「どこがどのようにわかりにくいのか」まとまった話ができるように、適宜サポートや声かけをする</p> <p>☆行事の案内などでよく使用されることばを確認する</p> <p>★資料が全て読みなくともキーワードとなる部分を見つけ、プログラムの構成がわかるように声かけをする</p>
	<b>運動会のオリジナルプログラムを作ろう</b>	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>多文化多言語の転編入児や保護者等がわかるようになるための表現の工夫をグループで考える</li> <li>グループで出た案の発表</li> </ul>	<p>★適宜、「なんで?」「どうして?」と問い合わせをして、理由を説明してもらう</p>
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムの作成 (資料①)</li> </ul>	<p>♡母語も書けることを他の児童や先生等、周囲に知つてもらい、自分の強みに気づく</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>多文化多言語の転編入児や日本語非母語の保護者のために発信する運動会プログラムにどんな工夫があるといいか確認する</li> <li>宿題：自分の保護者に保護者が経験した母国の運動会を尋ねる</li> </ul>	<p>★運動会未経験児及び日本語非母語保護者に対する運動会の種目の伝え方について、既存知識を活用して、相手に応じた適切な語彙や表現方法を考える</p> <p>♡ルーツの文化や習慣について家族と共有する</p>



資料① 児童Aと児童Cの制作物 (一部)

プログラム内容の中で、保護者に伝えるべき重要事項を考えながら絞り込み、ポルトガル語と日本語で表現。

## 子どもの様子＆実践者の気づき

本実践では、3名の児童が持つ多様な言語資源を活かし、運動会プログラムの作成と発表を行いました。プログラム作成では、包括的なことばの力を活用した話し合いを意図的に行い、普段は日本語を教わることが多い滞日期間の短い児童Aが、滞日期間の長い児童Cにポルトガル語で教える場面が見られました。また、普段は他児童に従いがちな児童Bが、発表原稿の作成や役割を提案し、積極的に参加する姿も確認できました。

さらに、発表に苦手意識を持つ3名に校長・教頭先生への発表機会を設けたところ、初めは緊張していましたが、先生方の反応により自信を得て、発表後には自作プログラムを保護者に配布したいと提案し、許可を得てさらに自信を深めました。この発表を通じて、管理職には児童や保護者の日本語力の現状を共有でき、学校配付物の見直しにもつながる契機となりました。

本実践から、授業の工夫により、多文化多言語の児童が持つすべての言語資源を活用することで「日本語ができない」という制約にとらわれず、ことばの力を伸ばせることを実感しました。

### 子どもが輝く授業のデザイン

本実践では、学校内の関係者や保護者を積極的に巻き込み、児童の日本語力のみならず、母語を含む包括的なことばの力を理解・共有する機会を創出する授業をデザインしました。現行の日本語のみのプログラムの見直しや協働学習の工夫、さらに管理職への発表を通じて、言語力に制約がある場合でも学齢相応の学びが可能であることを示しました。また、保護者に自身の子ども時代の運動会の経験を聞く宿題を課すことで、児童は家庭内での対話を通じて自らのルーツへの理解を深め、得た内容をことばや身振りを駆使して実践者に伝える姿勢を見せました。このように、学校と家庭の連携を軸にした取り組みは、子どもたちの多面的な発達を促進し、彼らの可能性を最大限に引き出すうえで大きな意義を持つことがわかりました。

小学生  
(小5)13 在籍学級につなげる先行学習・社会  
日本の工業生産と貿易 (教育出版)

## 対象者・対象グループ

学年	小学5年生	人数	2名
滞日年数	3年 日本生まれ・日本育ち		
つながりのある国	ベトナム パラグアイ・フィリピン		
母語	家庭では主に日本語 (保護者の母語はスペイン語 ベトナム語とフィリピン語)		
就学歴など	地域の保育園卒園後に現在の小学校に入学した児童と、ベトナムの小学校4年の途中まで在籍していた児童の計2名		

## ココを見た!

	日本語	母語
聞く・話す	DLA 日常での観察	本人および保護者との面談
読む	DLA 日常での観察	—
書く	DLA 日常での観察	—

## ステージ×ステップ



## 包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ (一番高い言語・技能)	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 母語 <input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す <input checked="" type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く	C, E	
ステップ	聞く・話す 4~5	読む 4~5	書く 4~5

## 実践の背景

本実践では、本校在籍で5年生の日本語指導が必要な児童3名のうちの2名を対象とした。ステージもステップも異なる2名が一緒に学習することにより、互いの課題になる部分を補い合いながら学習するという効果をねらった。児童につながりのある国の写真資料を扱う導入でも、互いのかかわりのある国の写真をそれぞれ見せることで、より日本の貿易や日本とつながりのある国との関わりについての興味関心が喚起されることも期待した。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
	✓		
個人	小集団	大集団	オンライン
	✓		

## 実践の概要

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>貿易が工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解するとともに、地図や統計などの基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につける</li> <li>貿易の役割を多角的に考える力を養い、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養う</li> </ul> <p>〈目標の力：D 6・E 5〉</p>		
目標に向けた重点活動	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く		
指導形態 取り出し指導	<b>指導扱い</b> 特別の教育課程 (教科につながる指導)		指導時間 週1 (1回45分)

### 実践の見どころ

本実践は、在籍学級の先行学習（社会科）として実践したものです。社会科を苦手とする児童と日本語の表現に課題が多い児童の2人の内容理解を進めるため、視覚支援を多くし、また思考力を伸ばすため、写真やグラフ、資料等をたくさん用意し、認知的な活動が多く行えるようにしました。日本語力を伸ばすために、穴埋めの表現モデルを用意して、資料から読み取った事を表現しやすいよう配慮しました。また気づいた特徴等を表現できるよう、対話で引き出す支援も多く行いました。児童の興味関心を高めるため、導入に対象児童につながるの国の写真を用意して、日本の貿易関係を意識できるように工夫しました。

社会科が苦手な児童にとってかなり認知的に負荷のかかる活動であったものの授業の終わりに「社会が好きになったかもしれない」とつぶやくなど、学びの楽しさを実感してもらえる実践になりました。

## 指導計画（全1時間）

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント
1	日本の輸出入について、その特徴をとらえる事ができる	日本は何をどこに輸出しているのか、何をどこから輸入しているのかを調べよう	<p>☆気づいた日本の輸出入の特徴を相手に分かるように話すことができる</p> <p>○写真や資料から、日本の輸出入の特徴をつかむことができる</p> <p>★日本の輸出入の特徴について、具体的な事例とともに理由を挙げながら話すことができる（D）、論拠を示しながらおおむね一貫性のある意見を述べることができる（E）</p>

## 授業の流れ

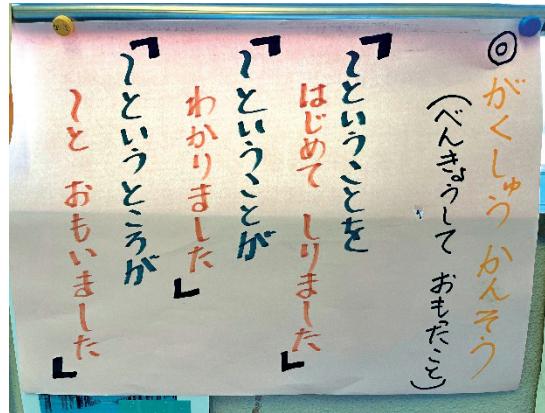
ねらい（目標） 日本の輸出入について、その特徴をとらえる事ができる

分	学習活動等	指導・支援のポイント
5分	1.いろいろな国の写真から日本の輸出入に関心を持つ	<p>○日本車の輸出が多く、世界中に輸出している事が理解しやすいようグラフ等の資料を用意する</p> <p>♡児童につながりのある国の写真を使う事で、課題への関心・意欲を高める</p>

分	学習活動等	指導・支援のポイント
12分	2.日本の輸出について調べる ・日本は何をどこから輸出しているのかな? ・調べたことから、日本の輸出の特徴を考える	★板書で理解を促せるよう、色分け、配置等を配慮する。 また輸出入の特徴を後でふり返りやすいよう吹き出しで板書する（資料①） ★難しい学習語彙（輸入、輸出）はイラストと解説短冊で理解を促す ☆何をどこから輸出しているかを考えたり発表しやすいよう、表現モデル（「日本は <u>何</u> を <u>どこ</u> へ輸出している？」）を用意する ☆日本の輸出の特徴を捉えやすいよう、また捉えた特徴を表現しやすいよう、対話で引き出し、ふき出しに記述する
12分	3.日本の輸入について調べる ・日本は何をどこから輸入しているのかな? ・調べたことから、日本の輸入の特徴を考える	☆何をどこから輸入しているかを考えたり発表しやすいよう、表現モデルを（「日本は <u>何</u> を <u>どこ</u> から輸入している？」）用意する ☆日本の輸入の特徴を捉えやすいよう、また捉えた特徴を表現しやすいよう、対話で引き出し、ふき出しに記述する
11分	4.昔と今の輸出入を比べて考えよう ・昔と比べてどんなことがわかるか考えよう	○比較して考えやすいようにグラフを並べて示す ☆考えた今の輸出・輸入の特徴を表現できるよう、対話で引き出し、ふき出しに記述する
5分	5.輸出入の特徴をふり返り、日本の貿易の概要を考える	○ワークシートに記述することで、輸出入の特徴を振り返る ☆学習感想を書きやすいように掲示してある表現モデル（資料②）を参照させる ☆黒板の「特徴」の吹き出しに注目させて、特徴に気づかせる ♡在籍学級での学習に意欲を高めることができる



資料① 本時の板書



資料② 表現モデル

## 子どもの様子&実践者の気づき

滞日年数3年の児童は、自分の考えをしっかり持ちながらも、相手に分かりやすく日本語で表現する事は苦手です。そのため、表現モデル（資料②）を用意して支援しました。同時に、児童のつぶやきを「対話で引き出」し、そのなかで気づいた特徴を相手に分かるように伝えるための手立てとして「対話で引き出す」ことも取り入れたところ、意見が言いやすくなった表情となりました。

一方、日本生まれの児童は、在籍学級の学習では常に授業内容の理解に困難を抱えています。社会は特に苦手意識が強いため、本時では認知的な活動が多いので難しい学習になることを想定して進めました。すると、実践者の予想に外れ、児童は常に「顔が上がり」、理解しようという姿勢に表れていたのです。つながりのある国の写真を提示した導入から、すでに目の輝きが違いました。「(つながりのある国に)なぜ日本車が多いのだろう」という課題意識が沸き出したことで、「その理由を知りたい」という気持ちが高い学習意欲となって、それが最後まで継続していました。それは、児童間の学び合いの効果だと思いました。

### 子どもが輝く授業のデザイン

「社会は苦手」と常に言う児童が、本時の終わりに「社会が好きになったかも知れない」とつぶやきました。日本生まれするために家庭でも日本語で会話する児童ですが、両親の出身国は児童にとって大切な国です。そのため、それらの国とかかわる学習であることがわかった瞬間、児童のやる気ギターは一気に変わりました。その力は、児童の学習意欲を高め、表現モデルに沿って「日本は自動車をアメリカ、中国、オーストラリアなどに輸出している」と資料をもとに発表できました。また「日本は自動車の輸出が多い」と具体的に資料を根拠に日本の輸出入の特徴について発表することができたのです。「授業がわかる」「授業に参加できる」ことが子どもたちにとって大きな喜びとなり自信と励みにつながる事を再認識できました。

小学生  
(6年)14 在籍学級につなげる先行学習・社会  
今に伝わる室町文化（「新しい社会6歴史編」東京書籍）

## 対象者・対象グループ

学年	小学6年生	人数	1名
滞日年数	1年7ヶ月		
つながりのある国	中国		
母語	中国語		
就学歴など	来日までは中国の小学校で学習 母と姉は日本在住 来日後から現在の小学校に通い、校内の日本語教室へ毎日通級する		

## ココを見た！

	日本語	母語
聞く・話す	日常での観察	日常での観察
読む	DLA	日常での観察
書く	DLA	母語（中国語）での作文

## ステージ×ステップ



## 包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ (一番高い言語・技能)	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input checked="" type="checkbox"/> 母語（中国語）	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input checked="" type="checkbox"/> 読む	<input checked="" type="checkbox"/> 書く	E
ステップ	聞く・話す 5	読む 6	書く 6			

## 実践の背景

対象児童は日本語でも母語でも読む力と書く力が高く、作文を書くのが得意で、自身の考えや意見を表現することができる。日本語で話す力も十分にあるものの、人見知りという性格と日本語で話すことへの自信の低さが話す力の発達を抑制してしまっているところがある。仲のいい友達や担当の日本語指導員と話す時には、大きな声で言いたいことをはっきりと話すが、在籍学級での発表や担任の先生との対話のときには、声が小さくなりやりとりが続かなくなる。また、学校では同じ中国につながる児童がいても中国語を話さず、中国について話すこともほとんどない状況である。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
	✓		
個人	小集団	大集団	オンライン
✓			

そこで、室町文化の1つである中国で生まれた「水墨画」を題材とし、児童が持っている包括的なことばの力を生かして日本語での話す力を高めるための授業を計画した。在籍学級で活躍できる場を在籍学級でつくることにより児童の自信を高めながら、中国と日本の文化のつながりにも気付くことができることにも取り組む。

## 実践の概要

ねらい	室町文化に登場した水墨画について、中国の歴史を調べまとめながら、2国間（中国と日本）の文化のつながりについて自分の言葉で表現することができる (目標の力:E6)		
目標に向けた重点活動	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input type="checkbox"/> 書く
指導形態 取り出し指導	指導扱い 特別の教育課程 (教科につながる指導)		指導時間 週2（1回45分）

### 実践の見どころ

本実践は、在籍学級と連携して取り出し指導での授業をデザインした補充学習です。対象児童の関心や意欲を引き出すために、学級担任と共に教科学習との繋がりを大切に場の設定を考え、学級で扱う歴史（社会科）の単元のなかでも水墨画に焦点をあてることとしました。水墨画の歴史を理解するために、包括的なことばの力を最大限に活用しながら児童の苦手意識が強い日本語で話す力を高めました。同時に、調べ学習を通して母国（中国）と日本の文化のつながりに気付ける活動にも取り組むことで、在籍学級での発表につなげました。

在籍学級で堂々と発表できた対象児童は、友達からたくさんのコメントをもらったことで、日本語で話すことに自信が持てるようになりました。なによりも、活動を通じて自分のルーツについて考え、誇らしく思う気持ちが芽生えたようです。対象児童の日本語で書く力と話す力を高めるだけでなく、学級担任やクラスメイトが中国文化に触れる機会にもつながる実践となりました。

## 指導計画（全2時間）

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント
1	中国の水墨画の歴史について調べ、必要な情報を選び分けることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室町文化の概要をつかむ</li> <li>・自分の国と日本のつながりを見る</li> <li>・中国の水墨画の歴史について調べる</li> <li>・調べた情報を選び分ける</li> </ul>	<p>☆金閣寺や書院造、茶道などの写真を見て、分かることや気付いたことについて教科の既習語彙を使って説明する</p> <p>☆必要な情報を、教科の学習語彙のキーワードを用いて付箋にメモし整理する</p> <p>★水墨画に関する情報を調べ、必要な情報を読み取る</p> <p>○水墨画に関する知識を思い出し、教科書には触れられていない歴史的背景や人物、作品について調べ、具体的な例を挙げて、まとまりのある説明をする</p> <p>♡ルーツと日本のつながりに気付く</p>
2	選び分けた情報を自分のことばでまとめ、表現することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べた情報をまとめ、自分のことばで表現する</li> </ul>	<p>☆前時で作成した付箋メモのキーワードを参考にし、調べた情報を重文や複文を用いた文章で伝える</p> <p>☆伝えたい事柄を接続詞や指示語を使用してまとまりのある文章を書く</p> <p>★前時で作成した付箋メモを見ながら、話の構成・順番を組み立てる</p> <p>○中国と日本の水墨画の違いを意識してそれぞれの特徴を表現する</p>
在籍学級 (1時間)	・調べたことと考えたことを発表する		

## 授業の流れ（1/2）

ねらい（目標） 中国と日本の水墨画の歴史について調べ、必要な情報を読み取ることができる

分	学習活動等	指導・支援のポイント
導入 5分	1.室町文化の写真を見て、特色について気付いたことを話す	★分からぬ言葉やうまく表現ができないことは、タブレットを使用して検索してもよいことを最初に確認する ○鎌倉文化や母国の文化と比較して、その共通点や違いに気付けるような問いかけをする
展開 前半 10分	2.自分の国と日本のつながりを見る ・水墨画について知っていることを話す ・「雪舟の水墨画」の動画を見て分かったことを話す（資料①）	★水墨画について知っていることを引き出せるよう問いかける ★必要があれば、動画から分かったことを話すために、日本語/中国語のメモを作る時間を取り
展開 後半 25分	3.単元の全体目標を一緒に考える 「この活動を通して何ができるようになったら嬉しい？」 「在籍学級の友達に何を伝えたい？」  4.中国の水墨画について調べる ・学級の友達は水墨画についてどんなことを知ったら興味が湧く？ →タブレットで調べて、必要なことは付箋にメモする（資料②）	○図工で水墨画を描く時間があることを伝え、最終的に何を学習目標にするか一緒に考えられるように問いかける  ○初めて知る人に何を話したら興味を持ってくれるか、調べるポイントを自分で考えられるように問いかける ★中国における水墨画の歴史や最盛期の有名な作品など、知りたいことを日本語/中国語で調べる
まとめ 5分	5.今日の活動を振り返る 6.次回までの宿題の確認 <予告>次回は発表の構成を考え、内容をまとめる	☆調べたことを自分が分かることばで話せるように問いかける ○自分のルーツと日本のつながりに気付くことができるよう促す



資料① 雪舟の動画を視聴する様子



資料② 考えた発表の構成

## 子どもの様子＆実践者の気づき

室町文化の特色を捉えるため、金閣寺や書院造などの写真を見ながら話し合うことからはじめました。母国との共通点について問いかけると「少し違うけれども華道や茶道がある」「水墨画もある」など、児童が発話を始めました。そして、徐々に水墨画に焦点化すると、中国で見た水墨画や小学校で水墨画が飾られていたなどの経験談を話し始めたのです。そこで、図工の時間に水墨画を描く授業があることを伝えると児童はびっくりしたようで、本当かどうか何度も聞いてきました。児童のなかで、何かスイッチが入ったようでした。クラスメイトがどんな情報を知ったら水墨画に関心を持てるかを考えた上で、「中国語で調べてもいいですよ」と伝えると、中国語でどんどん調べ始め、関連情報を集めていきました。そして、集めた資料や写真を取捨選択しながら構成を意識した発表資料づくりにも、積極的に取り組んでいったのです。

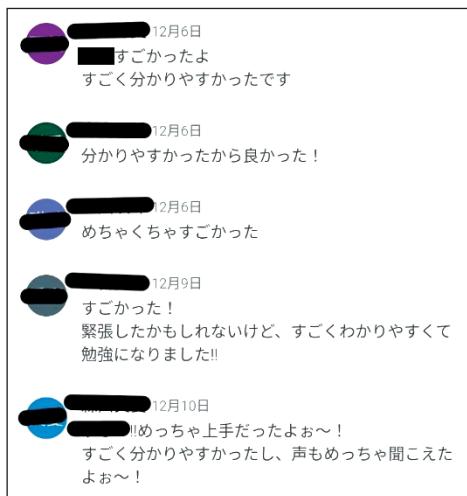
本実践のゴールを在籍学級での発表と設定しましたが、対象児童は話すことに苦手意識が強いため、その不安を払しょくできる方法はないか、考えました。「作文で書いたものを掲示・動画撮影・学級で発表」という3種類の発表形式を準備し、児童に選択できるように準備したところ、児童は「学級での発表」を選択したのです。学級で伝えたいという気持ちが、児童の日本語での話す力を高めたのです。

### 子どもが輝く授業のデザイン

在籍学級での発表日が決まってから何度も何度も練習を繰り返してきた児童でしたが、当日になると「やっぱりやりたくない。恥ずかしい。」と児童は言い始めました。そのため、児童と一緒に在籍学級に向かいました。クラスの友達も何が始まるのだろうと注目するなかでの発表会でしたが、児童は大きな声で話すことも、クラスのみんなに質問を投げかけることも、最後まで止まることなく発表することができました。

学級担任が翌日にGoogle Classroomで発表時の動画を共有したこと、クラスの友達が多くのコメントを寄せてくれました（資料③）。対象児童の保護者も動画を視聴した上で、「感動しました。ありがとうございました。」と担任に涙を流しながら話したようです。

学級での発表を通して対象児童は、学級担任や友達から発表に対するコメントや称賛ももらったことで自信が芽生え、学級での発話も増えました。同じルーツの年下の児童に分からぬことを母語で説明してあげたりする姿も、見られるようになりました。



資料③ 学級担任と友達のコメント

小学生  
(6年)15 在籍学級につなげる先行学習・国語  
言葉について考えよう—日本語の特徴 (光村図書)

## 対象者・対象グループ

学年	小学6年生	人数	4名
滞日年数	7か月 1年3か月 1年7か月 3年8か月		
つながりのある国	中国 フィリピン		
母語	中国語 英語とビサヤ語		
就学歴など	来日までは母国的小学校で学習 来日後は日本語学級に通級しながら在籍校に通う		

## ココを見た!

	日本語	母語
聞く・話す	DLA 日常での観察	母語支援員による日常での観察 保護者からの聞き取り
読む	DLA 日常での観察	母語支援員による日常での観察 保護者からの聞き取り
書く	日常での観察	母語でのできごと作文

## ステージ×ステップ



## 包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ (一番高い言語・技能)	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 母語 (中国語・英語とビサヤ語) <input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す <input type="checkbox"/> 読む <input checked="" type="checkbox"/> 書く	C～D	
ステップ	聞く・話す 5～6	読む 5～6	書く 4～5

## 実践の背景

本校には日本語学級があるため、在籍児童2名と他校からの通級児童2名の6年生で小集団を編成した。日本語での日常会話の力は習得できているものの学年相当の力に達してはいないため、通常の在籍学級での授業では積極的な参加が難しい。だが、日本語学級では前向きに学習し、家族や日常の話などを楽しそうに話

してくれる児童たちである。例えば、夏休みのできごと作文を母語で書いたときは、体験したことを順序にそって状況が伝わるように詳しく書くことができた。その時に考えたことなども交えながら、構成のある作文を書いた児童もいた。つながりのある国の話をする時に生き生きとする児童の姿から、児童の持つことばの力を生かせる単元の中で自己肯定感を高める授業をしたいと考えた。

そこで、本単元を在籍学級の学習への橋渡しをする先行学習として位置付け、母語を生かしたグループでの学び合いによる活動から、互いの弱い力を育てる場を設定した。在籍学級と連携し、先行学習で身に付けた力を在籍学級で活躍できる場を設定することで、児童の自己肯定感を高めながら日本語固有の力を育てることをめざした。

サバイバル(初期指導)	取り出し指導	在籍指導(入り込み含む)	放課後NPO
	✓		
個人	小集団	大集団	オンライン
	✓		

## 実践の概要

ねらい	日本語に特有の言葉や表現などに注目して、日本語の特徴についてまとめができる (目標の力:D~E 6~7)		
目標に向けた重点活動	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input type="checkbox"/> 書く
指導形態 取り出し授業	指導扱い 特別の教育課程 (教科につながる指導)		指導時間 週1 (1回45分)

### 実践の見どころ

本実践では6年間の言葉単元（小学校国語科）の集大成として、「日本語の特徴」の単元を先行授業として扱いました。対象児童の強みを生かし、母語と比較しながら日本語の特徴を見いだせるように取り組んだことで、在籍学級での学習に意欲を高めることができました。

意図的に小集団を編成した学習の良さが発揮されたのが、日本語の特徴としての語感や言葉の使い方についての観点を導き出す授業の時でした。日本語と母語について、それぞれの文章の組み立てや表記、地域の気候や文化との関係などの例を挙げながら支援すると、児童からは「ビサヤ語はスペイン語の特徴と似てる。昔セブ島にはスペインの人がいたって聞いたことがある。」「言葉は文化と関係がある、つながっている。」との声が出てきました。日本語と母語と仲間の母語（他の言語）の違いの面白さに気付きながら、自ら考えた観点から日本語の特徴をまとめたスピーチ原稿づくりを楽しんでいました。

## 指導計画（全4時間）

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント
1	他言語との比較から日本語の特徴について理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語の特徴を考え、紹介するという学習の見通しをもつ</li> <li>他の言語と比べ気付いたことを話し合う</li> </ul>	☆語句の係り方や文字などの違いに気付く ★比べることによって分かる言葉の特徴に気付く ♡日本語の特徴を理解しながら、母語や母文化に自信をもつ
2	言葉や表現に着目して日本語の特徴をまとめることができる (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の説明を参考に日本語の特徴をまとめる</li> <li>言葉にはもの見方や考え方方が表れるという例から気付いたことを話し合う</li> </ul>	☆語句同士の関係、構成や変化について理解して語や語句を使う ○事実と感想、意見を区別し自分の意見が分かるように話す ♡話される国の文化や生活が言葉に大きく影響を与えることに気付く
3	日本語の特徴を紹介することができる。 (自分の得意な言語について紹介することができるにつなげる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「日本語のここがおもしろい」と思うところを紹介するスライドを作り、スピーチメモを書く</li> <li>スライドを活用し、スピーチする</li> <li>友達の発表を聞き合う</li> </ul>	☆モデルを参考にスピーチメモを書き、スライドを作成する ☆意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する ★友達の発表を聞くことで視野やものの見方を広げる ♡在籍学級での発表に意欲をもつ
4			

## 授業の流れ

ねらい（目標） 言葉や表現に着目して日本語の特徴をまとめることができる

分	学習活動等	指導・支援のポイント
導入 5分	0.挨拶 1.本時のめあてを確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">日本語の特徴について考え、まとめよう</div> •前時を振り返り、気付かなかつた観点で特徴を考えることを確認する	☆児童の分からぬ言葉や表現をやさしい日本語に言い換えながら、友達の助言も補助に理解できるように促す（資料①）
展開 35分	2.言葉や表現には、ものの見方や考え方方が表れていることを押さえる •教科書を音読する •「英語では「兄」も「弟」も「brother」の文から、表し方の違いを考える •「日本語には「雨を表す言葉」が豊富にあります」の文からその訳を考える •気付いたことをメモし、それを基に話し合う  3.「言語の特徴を考えるときは」を参考にして、日本語の特徴をまとめること •「文の組み立て」「表記」「言葉や表現」など観点ごとに表にまとめる	☆○振り仮名付きのデジタル教科書を使用する（資料②） ☆語や語句の意味、その関係を理解できるように支援する ★具体的な事例と共に理由を挙げながら、自分の意見を述べができるように促す ☆児童の分からぬ言葉や表現をやさしい日本語に言い換える。友達の助言も補助にして、理解したり、表現したりできるように支援する ★学習内容や経験について情報をまとめ、その理由を含めて説明できるように促す ☆項目ごとの特徴をデジタルノート（思考ツール）にまとめるように促す
まとめ 5分	4.本時を振り返る	♡友達の良いところを認めながら、次時の学習に意欲を高める

## 子どもの様子＆実践者の気づき

学校では一人一台端末が普及し、ともするとタブレットの翻訳機能で授業内容の理解支援を済ませてしまうこともできる状況になっています。しかし対象児童は翻訳機能に頼ることはなく、包括的なことばの力で自分の考えをまとめ、それを基に日本語で表現しながら、仲間と日本語で積極的に意見交流していました。

「なぜ言語を学ぶのか」という問い合わせにも、児童からは「友達になりたいから」「翻訳（機能）では間違いもあって気持ちが伝わらない」「その国の文化を知りたい」という答えが出てきました。自分の考えをまとめるとにはICTの良さを生かした思考のツールの道具として使用しつつも、人前での発表や交流などで自分の考えを表現するときには自分の口で伝えたいという児童の選択に、「コミュニケーションにおいて大切なこと」や「ことばを学ぶ姿勢」を改めて気付かされました。



資料① 対話しながら授業の導入



資料② デジタル教科書を活用した説明

## 子どもが輝く授業のデザイン

日常会話ができるようになっても、高学年の在籍学級の授業にはついていけない。これは、在籍学級の担任と共に悩んでいた課題でした。そこで、本実践を在籍学級での先行学習と位置づけ、ゴールを在籍学級での発表として設定しました。

発表準備にあたって、今までの学習体験から捉えた「日本語の特徴」を母語も使ってメモを書く活動を基に、友達と日本語で意見交流をしながら学び合いを深めました。すると、日本語で表現することに苦手意識をもっていたC5の児童が、意欲的に自分の経験をもとにしながら意見を言い出したのです。また、日本語で十分に表現できない時には、同じ母語同士の児童が助け合ったりアドバイスをしたりする姿もありました。日本語力のレベルや母語が異なる小集団であっても、実践者の工夫次第で、児童同士の学び合いの場がつくれるのです。在籍学級での発表に意欲を高めた児童たちは、母語と日本語との特徴を比較した例を示しながら、一貫性をもって堂々と発表することができました。

相手意識や到達点を明確にすることにより、様々な違いを踏まえて、自分の強みを生かしてことばを学ぶ。自分の母語を誇りにして、その特徴を在籍学級で発表し、クラスメイトに認めてもらう。このような活動を経験することが、自尊感情を高め自己肯定感を育てる一助になり、自己実現への一歩となってほしいと願つてやみません。

# 小学生 (6年)

## 16 タスク型活動

# 『ひまわり』にやってくる子どもや保護者のためのパンフレットをつくろう

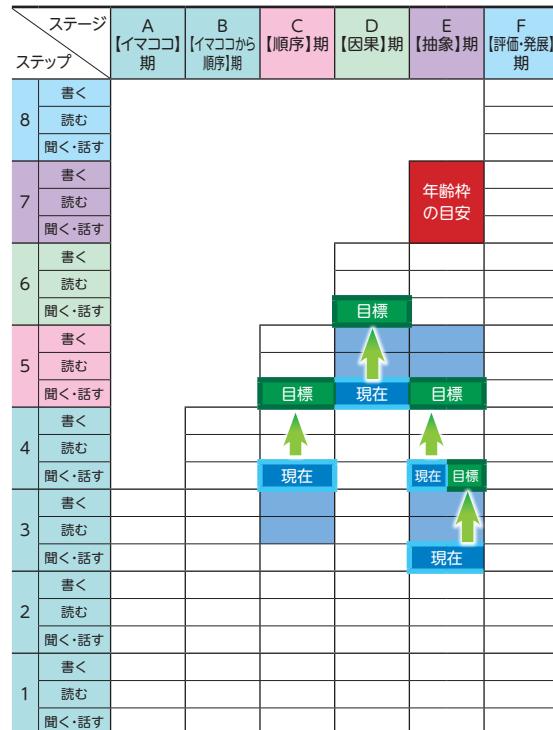
## 対象者・対象グループ

学年	小学6年生	人数	4名
滞日年数	10ヶ月	1年2ヶ月	2年4ヶ月
つながりのある国	フィリピン	ネパール	中国
母語	英語	ネパール語・英語	中国語
就学歴など	4名全員が小学校段階で入国。入国後、日本の小学校に編入。編入直後、市が設置するサバイバル（初期集中）の学習を経て、現在は在籍校で取り出し指導を得ながら学習中		

ココを見た！

	日本語	母語
聞く・話す	一部DLA 日常での観察	母語支援者による日常での観察
読む	一部DLA 日常での観察	—
書く	日常での観察	—

## ステージ×ステップ



## 包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ (一番高い言語・技能)	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input checked="" type="checkbox"/> 母語 (英語 ネパール語 中国語)	C~E
	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む	
ステップ	聞く・話す 3~5	読む 3・5	書く 3・5

## 実践の背景

本実践は、力の異なる6年生児童4名が一つのグループとなり、日本語支援拠点施設「ひまわり」のパンフレットを作成するタスク型の活動である。積極的に日本語を使う児童は、話し合いの中でリード役として活躍が期待される。高学年以降に来日した二人の児童のうち一人は、包括的なことばの力は高いものの、日本語での学習につまずきや苦手意識がある。もう一人は思考力が高いが、日本語表現に課題があるため、母語で考えたことを日本語で整理する支援が求められる。日本語に消極的だが、母語の同じ児童と協力することで話し合いに参加しやすくなると考えられる。滞日期間が最も長い児童は日常会話には問題がないが、学習に自信がなく、少人数で発言しやすい環境の整備が必要である。このことから、児童らが「やってみたい」と興味を持ち、体験を題材に「話すこと」「書くこと」への動機を高められるようなパンフレット作成活動を計画した。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
	✓		
個人	小集団	大集団	オンライン
	✓		

本実践は児童が在籍する小学校の国際教室担当教諭と一緒に授業を計画し、実施した。

## 実践の概要

ねらい	<p>・自分が感じた「ひまわり」の様子について意見を交換しながら、パンフレットの内容やトピックの構成を考案し、作成できる。さらに、お互いにアドバイスをしながら、より良いパンフレットを完成させることができる (目標の力:D~E 4~6)</p>		
目標に向けた重点活動	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input type="checkbox"/> 書く
指導形態 取り出し指導	<b>指導扱い</b> 特別の教育課程 (タスク型活動)		指導時間 週4~5 (1回45分)

### 実践の見どころ

本実践は、ひまわりで指導を受けた後、在籍校へ通う6年生4名を対象に計画をし、ひまわりの紹介パンフレットを作成しました。一つのパンフレットにまとめることを目標に、話し合いを通して、読み手にとってわかりやすい構成や必要な内容を考える活動を行いました。

まず、母語が異なる4名の共通言語である日本語でのパンフレットを作成するため、それぞれの力の違いに配慮しながら、児童同士の相互作用と個々の強みを生かせる学びの場を整えました。経験や思いを日本語で伝えることで「話す」意欲と学習への自信を高められるように支援を行いました。日本語版パンフレットの完成後に、母語でのパンフレットを作成しました。日本語のパンフレットを児童の母語に変換する過程を通して、日本語と母語の表現の違いを話し合い、メタ言語の知識を深める活動を実施しました。この過程を通じ、ひまわりに入級する子どもや保護者に役立つものを作る経験が、自己肯定感を育むことにもつながりました。

## 指導計画 (全7時間)

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント	
1	活動に対して動機づけをする	ひまわりで体験した活動を書き出す	☆パンフレットに書きたい内容を日本語の短い文で書き出すことができる (4~5)	★自分の来日直後の思いや楽しかったひまわりでの活動を想起する ★自分の思いや考えを日本語と母語で話しあう (D)
2 3	話し合いを通じ、内容と構成を考える	パンフレットに紹介したい内容について話し合う (資料①)	☆聞きなれた日本語の語句を組み合わせ、パンフレットに掲載したい内容について話す (4~5) ☆接続表現や指示語を用いて、まとまりのある話ができる (6)	○話し合い活動についてのポイントを理解し、話し合いに参加する ★自分の思いや友だちの考えを合わせながら、より良いパンフレットについて考える (E)
4	構成と内容に気をつけて、執筆する	担当する内容の下書きを作成する	☆日常語彙を幅広く使って文章を書く (5) ☆様々な接続表現、指示語を用いてまとまりがある文章を書く (6)	★ひまわりの経験を思い出し、活動と感想を分けながら、トピックについてまとめる (D) ★相手や目的に合った文章を書くことができる (E)
5 6	アドバイスと推敲を通して、内容を深める	原稿を読み合い、さらにわかりやすくするためのアドバイスをする (資料②~③)	☆聞き慣れた日常的な語彙を使いながら、友だちの原稿にアドバイスをする (4~5) ☆ひまわりで経験した事柄について、内容にあった簡単な文章を書く (4~5) ☆ひまわりで経験した事柄についてまとまりのある文章を書く (6)	★友だちの原稿を読み、より良い構成になるようアドバイスをする (E) ★根拠を述べながら、友だちの原稿に適切なアドバイスをする (E) ♡パンフレットの完成を喜び、学習への意欲をさらに高める

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント
7	両方のことばを多角的に捉える	日本語で作ったパンフレットをもとに母語のパンフレットを作る(資料④)	☆友だちが書いたパンフレットの内容を理解し、漢字、語彙、表現が理解できる(4~6) ★日本語の文章を、読み手にわかりやすいように、順序を入れ替えたり、必要なものを追加したりしながら、母語に書き換える(E) ★日本語と母語の比較から、メタ言語の力を養う(E)

## 授業の流れ (2/7)

ねらい(目標) •パンフレットに掲載する内容について話し合う。  
•より良いパンフレットになるよう、友だちと意見交換することができる。

分	学習活動等	指導・支援のポイント
5	0.あいさつ 1.前時のふりかえり •本時のめあてについて確認する	☆パンフレットに掲載する内容について思い出すように促す ★前時の活動をふりかえり、本時の内容を確認する  話し合いをしながら、ひまわりのパンフレットに載せる内容を考えよう。
5	2.「話し合い」について確認する	○話し合いの仕方を確認する ★パンフレットの内容について自分の意見を伝えられるように促す
20	3.話し合いを通して、パンフレットの内容を6つ決める(資料①)	☆自分が考えた内容について、簡単な複文を用いたり、様々な接続表現や指示語などを用いて話せるよう、児童の力に応じて支援する ★児童の力に応じて、根拠を述べながら考えを伝えられるように支援する ★より良いパンフレットを作成するために、今まで出でていない意見を加えたり、削ったりする ★パンフレットの構成について、母語で会話したり、確認したりするよう積極的に促す
10	4.今まで出た意見をまとめ、パンフレット作成に取りかかる	☆見出しをもとに、内容を考えながら書くように促す ★紙面の大きさを考えながら、伝えたい内容を厳選し、下書きをする ★日本語で表現できない場合は、母語で考え、日本語に直すように促す
5	5.まとめ 本時のふりかえりをし、次時の見通しをもつ	○最終的に母語でのパンフレットを作り、これからひまわりに入級する子どもや保護者に役立つものであることを確認する

## 子どもの様子&実践者の気づき

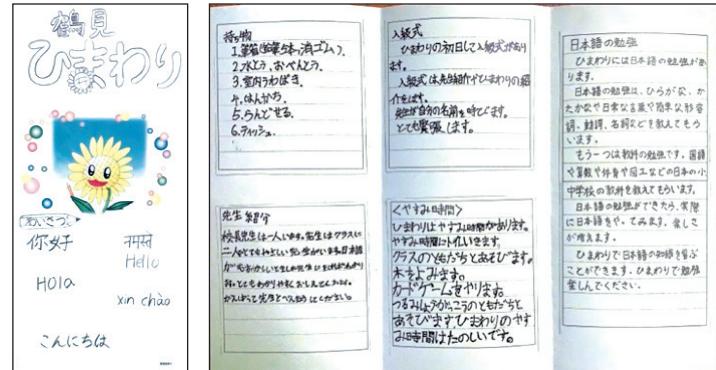
本実践は校長先生から対象児童へのパンフレット作成依頼から始まりました。「これから日本に来る子どもたちのため」に「自分自身の経験を伝える」という読み手と目的を明確にし、パンフレット作成に意欲的に取り組みました。話し合いでは、滞日年数が浅い児童が自ら司会の役に挑戦しました。それにより、話すことが得意な児童も普段以上に友達の話に耳を傾け、話し合い全体がより活気づきました。日本語に消極的な児童も母語の同じ児童のリードにより、中国語で確認しつつ日本語で意見を述べることができました。お互いが認め合える空間の中で、滞日年数が最も長いものの消極的な児童も、自分の考えを伝えることができました。参観していた国際教室の先生から「話し合いがしっかりできたね」とコメントをもらえ、児童たちは学習への自信を深めることができました。

完成した日本語パンフレットを、中国語へ翻訳する活動では、中国語が母語の児童はいつも以上に意欲的に取り組む姿が見られました。活動中「難しい」、「これはわかるかな」としばしば口にする姿がありました。

実践者から「中国語にすぐに直せないの？」と尋ねると、「中国にはないことばがあるから、考へないと意味が通じない」と返答しました。みんなで考へた日本語のパンフレットを読み手を意識しながら中国語に直す活動は、メタ言語意識を高める活動として、認知的に高い取り組みであると実感しました。書き終わった後の、満足そうな児童の表情が印象的で、今後も自己肯定感を育む学習を大切にしていきます。



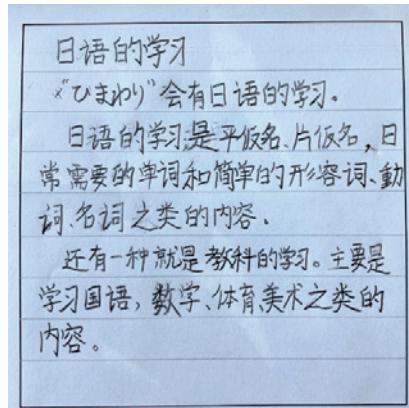
資料① 話し合いの様子



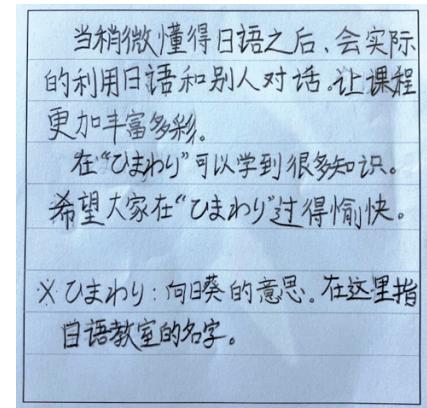
資料② 児童が作ったひまわりのパンフレット



資料③ わからない内容は中国語でお互い確認



資料④ 日本語のパンフレットから中国語へ



## 子どもが輝く授業のデザイン

「来日直後の児童も、話し合い活動はできる！」そんな思いから本実践はスタートしました。ひまわりで体験した活動を話し合いながら、パンフレットを作る過程では、児童たちは生き生きと日本語で話すことができました。パンフレットの内容を推敲する場面でも、必要な情報、まとめられる情報などを話し合いながら、パンフレットの内容を考えることができました。児童たちにとって意味のある活動を行うことで滞日年数が浅い児童でも日本語で話し合う活動を行うことができます。また、児童一人ひとりの日本語や包括的なことばの力を公正に見取り、それぞれの強みを活かせるよう支援を行うことも重要だと改めて感じました。